

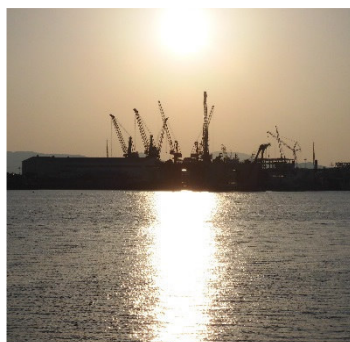
球磨川と^{とき}時間の流れに育まれた
人と風景がともに輝くまち“やつしろ”

八代市 景観計画

Landscape Plan of Yatsushiro City

(素案)

平成31年〇月



はじめに

平成31年〇月
八代市長 中村 博生

八代市景観計画 目次

序章 景観づくりの考え方.....	1
第1節 景観計画策定の背景と目的	1
(1) 景観計画策定の背景	1
(2) 景観計画の目的	1
第2節 景観まちづくりの必要性	2
(1) 景観とは	2
(2) 景観まちづくりとは	2
(3) 景観まちづくりの必要性	2
第3節 景観計画の位置づけ	3
第4節 八代市の景観特性.....	4
(1) 景観構造	4
(2) 八代市の景観の構成要素	5
(3) 景観特性	6
(4) 景観の主な問題点と課題	13
第5節 “眺めの小路”を用いた景観まちづくり	16
(1) “眺めの小路”とは	16
(2) 景観まちづくりにおける“眺めの小路”の有効性	16
(3) 八代市の“眺めの小路”	16
(4) “眺めの小路”を用いた景観まちづくりのあり方	17
第1章 景観計画の区域	20
第1節 景観計画の区域	20
第2章 良好な景観の形成に関する方針.....	21
第1節 基本目標.....	21
第2節 基本方針.....	21
(1) 景観形成の視点	21
(2) 全市域の共通方針	22
第3節 景観構造別の景観形成方針	24
(1) やまなみ景観ゾーン	25
(2) 海辺景観ゾーン	26
(3) まちなか景観ゾーン	27
(4) 田園景観ゾーン	29
(5) 河川景観軸.....	30
(6) 道路景観軸.....	31
(7) 鉄道景観軸.....	32
第4節 景観重点地区候補の景観形成方針	33
(1) 八代城跡・市役所周辺	34

(2) 本町アーケード街.....	35
(3) 日奈久温泉街.....	36
(4) 妙見宮周辺.....	37

序章 景観づくりの考え方

第1節 景観計画策定の背景と目的

(1) 景観計画策定の背景

日本のまちづくりは、高度経済成長期の中で経済性や機能性が優先され、景観に対する配慮が欠けてきたといわれています。

しかしながら、人の価値観が、量的充実から質的向上へと変化しつつあり、良好な景観への関心が高まっています。

これを背景に、景観に関する総合的な法律である「景観法」が、平成17年に全面施行され、全国の多くの地方公共団体において、景観条例の制定をはじめとした景観に関する様々な取り組みが行われています。

そのような中、平成17年の1市2町3村の合併により、八代市域は拡大し、九州中央山地から八代海に至る広大な範囲の中に、数多くの特徴的な景観を有することとなりました。

また、近年では、市役所庁舎の建て替えや大型クルーズ船の寄港による外国人観光客の増加などを受け、八代城跡周辺や日奈久温泉街などの地区で、八代らしさを活かした新たな景観づくりが求められるようになっていきます。

その一方で、少子高齢化の進展、人々の生活様式の多様化や経済活動の変化に伴い、本市の景観を取り巻く環境は大きく変化し、山林や農地の荒廃、空き家・空地の増加など、潤いのある自然景観や八代らしい雰囲気のあるまちなみ景観が損なわれつつあるのも事実です。

また、法的担保や地域の特性に応じたきめ細やかな規制誘導策がないことから、重要な景観資源が消失したり、周辺と調和しない建築物が建築されたりすることが懸念されます。

さらに、各地域で景観づくりの活動は行われているものの、具体的目標やバックアップしていくための仕組みがないことから、有機的な連携に乏しく、持続的な活動につながっていないのが現状です。

そこで、これらの要請・課題に対処し、八代らしい魅力ある景観形成を推進していくため、「景観法」に基づく「八代市景観計画」を策定することとしました。

(2) 景観計画の目的

八代市景観計画は、市民の意向を踏まえて、八代らしい良好な景観の保全・形成を総合的かつ計画的に推進するための基本方針および景観形成基準等を明らかにし、市全体で共有することを目的としています。

また、景観計画や条例の制定により、具体的な目標像や景観形成方針を定め、景観づくりに関して一定の強制力を持ったルールをつくることもできます。

さらには、景観法の諸制度の活用により、市民・事業者・行政のそれぞれが主体となり、協働して景観づくりを推進することができます。

本計画は、今後の市民主導による景観づくりへの円滑な展開を見据え、生活者である市民の暮らしの社会基盤施設としての“眺めの小路”※に焦点を当てて策定しています。

※“眺めの小路”とは、本市を特徴づける景観や、守り育てていきたい景観を、眺め、楽しみながら歩くことができる小路です。本計画では、景観づくりの活動の場として位置付けています。

第2節 景観まちづくりの必要性

(1) 景観とは

景観とは、「目と心に映るまちの姿」であり、目に見える色や形だけでなく、その土地の歴史、文化、風土、都市活動や日常生活から生じる雰囲気、さらには、水の流れる音や匂いなど、人間の五感を通して感じられるものです。

良好な景観は、人々の長い時間をかけた生活の営みや努力の積み重ねにより形成されます。

(2) 景観まちづくりとは

景観まちづくりとは、地域固有の美しい景観を、守り、育み、創り出すことで、魅力あるまちにしていく、一連の取り組みをいいます。

具体的には、歴史文化遺産の保全や美しいまちなみの創出など、大きな取り組みの他に、地域の清掃や除草・花植えなどの日常の地道な活動も、大切な取り組みのひとつとして挙げられます。

すなわち、景観まちづくりは、単に美しく魅力的な空間をつくることだけではなく、そこに住み、働く人のいきいきとした生活や活動を目指すものといえます。

また、景観まちづくりの対象は、私たちが日常的に見ている、自然の景色や道路等の公共空間だけでなく、通りから見える個人の建物や庭なども含まれます。

特に、住宅・店舗の外壁や屋根、敷地内の緑地や生垣、看板など、多くの人から見える部分は、まちの景観を構成する大きな要素であり、個人の所有物であっても、地域の共有空間であるという意識を持つことが大切です。

(3) 景観まちづくりの必要性

良好な景観は、私たちの暮らしに潤いや安らぎを与えるとともに、そのまちに「住んでみたい、住み続けたい」と感じさせる「まちの魅力」となるものです。

また、良好な景観は、人の心を育み、その心が次の良好な景観を育むという、持続的な展開にもつながっていきます。

誰もが足を止め、「美しい」、「心地よい」と感じる場所には、その地域に暮らす人々の地道な景観まちづくり活動が息づいています。

景観まちづくり活動は、地域への愛着や誇りを育み、豊かなコミュニティを形づくるものです。

さらに、まちの個性や魅力を引き立てることは、観光や地域間交流、産業活動、文化活動に活力を与え、地域の活性化につながります。

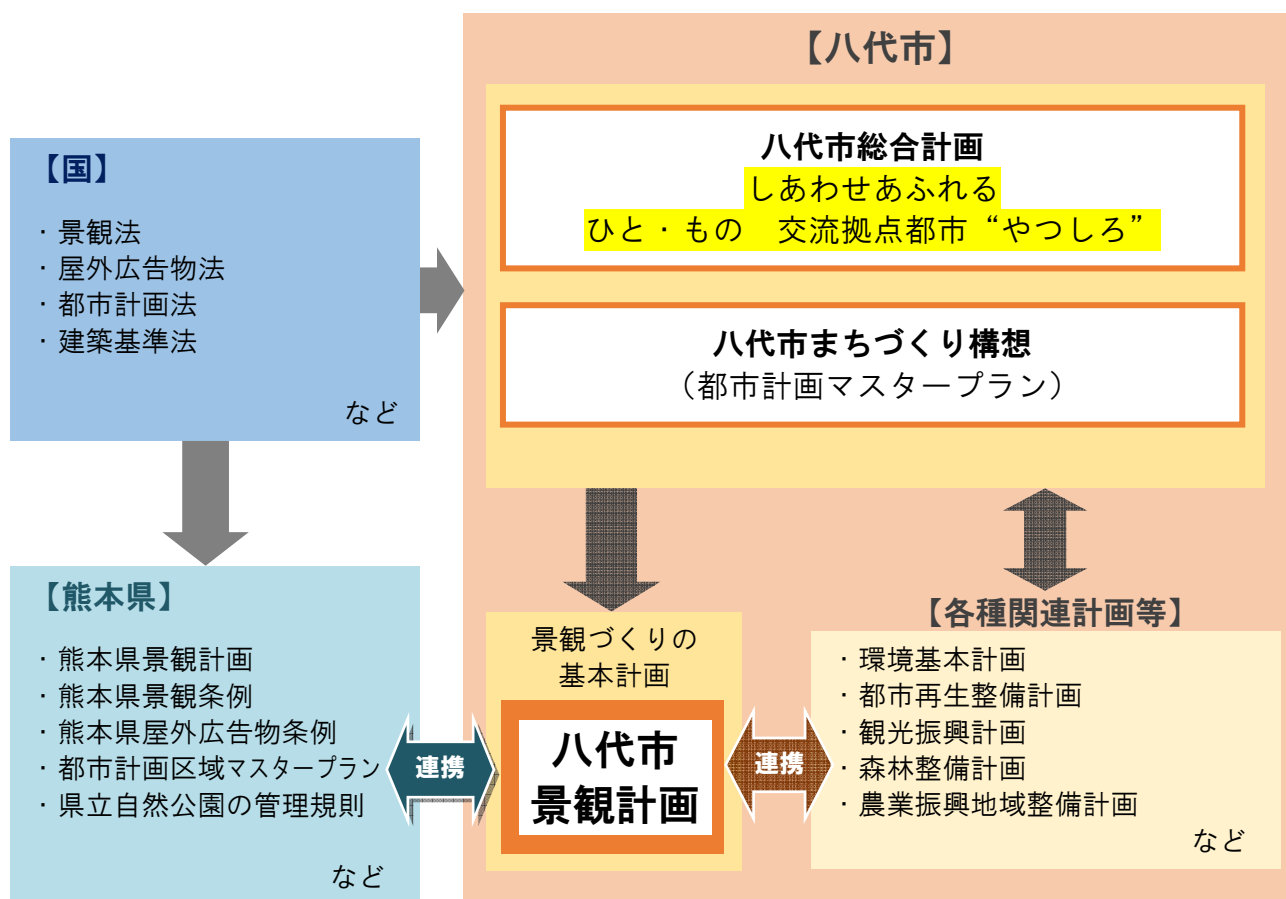
豊かな自然、歴史、文化、多様な地域性は、本市の個性であり、後世に残すべき市民共有の財産です。

今後、本市が魅力ある都市であり続けるためには、この「八代らしさ」を活かした良好な景観まちづくりに、市民一人ひとりが、当事者であることを意識しながら、積極的かつ持続的に取り組むことが必要です。

第3節 景観計画の位置づけ

八代市景観計画は、景観法第8条の「良好な景観の形成に関する計画」として定め、豊かな自然、歴史、文化、暮らしが織り成す八代固有の景観を“守り”“育み”“つくり”、次世代に誇れる景観として引き継ぐために、目標や方針を達成するための取り組み、景観形成基準等を定めた基本計画です。

今後は、本計画に基づき、市の景観の特性を活かしつつ、更なる景観の魅力向上に資するような景観まちづくりを進めていきます。



▲景観計画の位置づけ

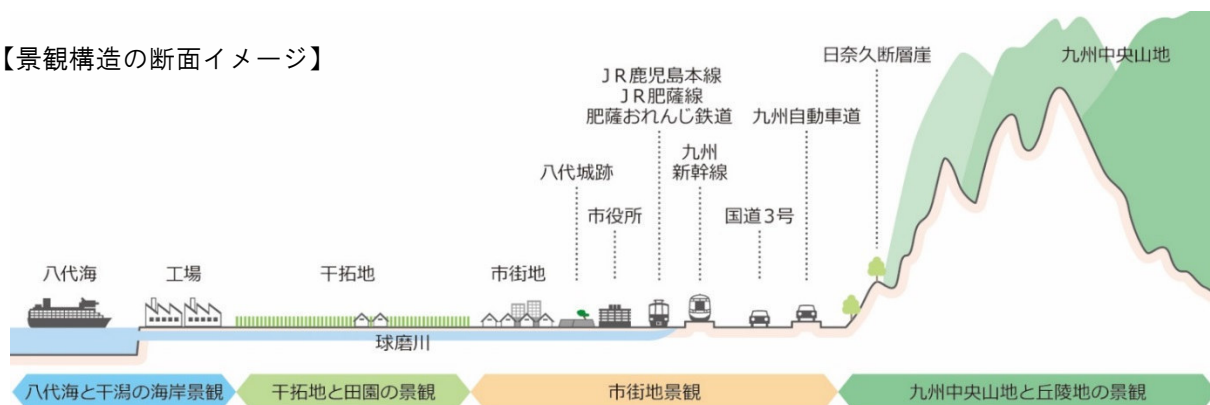
第4節 八代市の景観特性

(1) 景観構造

八代市の地勢は、日奈久断層崖に沿って東側の山間部と西側の平野部に大きく分けられます。

東側の九州中央山地から日奈久断層崖の市街地にせまった斜面緑地を經由して、西側に広大な干拓地が広がり、八代海に至る多様でダイナミックな地形が景観構造の土台となっています。

【景観構造の断面イメージ】



景観の構造をみると、九州中央山地と丘陵地からなる「やまなみ景観」、八代海と干潟が広がる「海辺景観」、広大な干拓地と田園からなる「田園景観」、市街地を中心とする「まちなか景観」の4つの景観域により構成されています。

また、球磨川、氷川等の「河川景観軸」や国道3号、国道219号、国道443号、国道445号、主要地方道八代鏡宇土線、県道八代港線、九州縦貫自動車道等の「道路景観軸」、JR鹿児島本線、JR肥薩線、肥薩おれんじ鉄道、九州新幹線の「鉄道景観軸」が景観構造の骨格を形成しています。

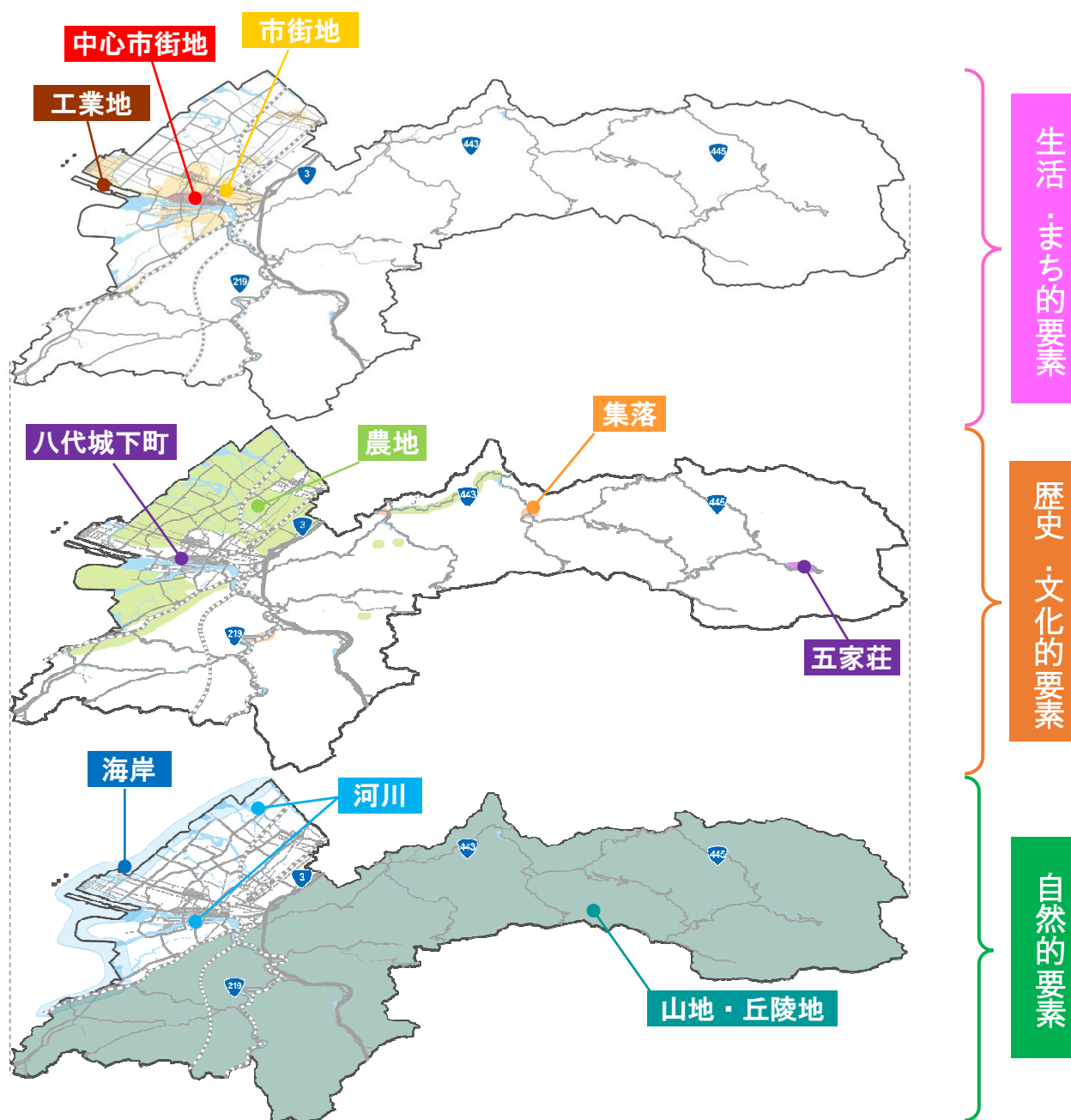


▲景観構造図

(2) 八代市の景観の構成要素

八代市の景観の美しさは、前述した特徴的な景観構造の中に包括される以下の3つの要素に分類でき、これらの要素が様々に混ざり合って形成されています。

- 「生活・まちの要素」：住宅地や商店街、工業地等、人々の日常生活のフィールドとなるもの
- 「歴史・文化的要素」：集落、干拓地や農地、歴史的まちなみ等、長い時間をかけて人々の営みの中で形成されたもの
- 「自然的要素」：海岸、山林、河川、**沖積平野**等、ありのままの自然



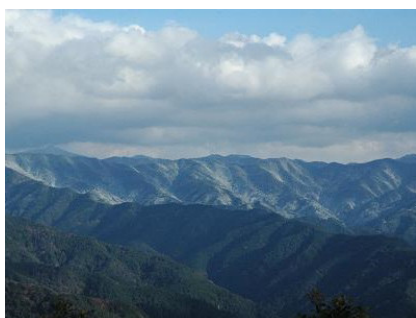
▲景観を構成する3つの要素

(3) 景観特性

①自然景観

●九州中央山地と丘陵地からなる「やまなみ景観」

- 東部は、九州中央山地国定公園や五木五家荘県立自然公園に指定された山間部となっています。
- 山間部には、熊本県最高峰の国見岳を中心に森林が広がり、五家荘の紅葉・新緑、美しい渓谷、吊り橋、国指定名勝の走り水ノ瀧をはじめとする滝、龍峯山自然公園や八竜山自然公園のやまなみなど、四季折々の変化に富んだ緑の景観が地域の人や訪れる人の目を楽しませています。
- 急峻な山々が連なる谷沿いの道路を中心に棚田が分布し、農林業を主体とする山村集落地が点在しています。
- 平野部から山が急激にせり上がる光景が、特徴的な景観のひとつとなっています。
- やまなみは、平野部からの眺めの背景となり、市内全体の景観に視覚的な潤いを与えています。



▲さかもと八竜天文台からのやまなみ



▲梅の木轟公園吊橋



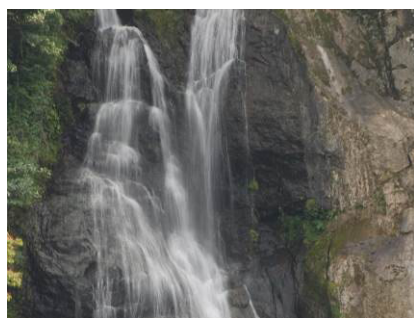
▲五家荘の紅葉



▲泉支所からみた山桜



▲樅木の吊橋



▲走り水ノ瀧



▲平野部からのやまなみ



▲氷川ダム



▲やまなみと山村集落

●八代海と干潟が広がる「海辺景観」

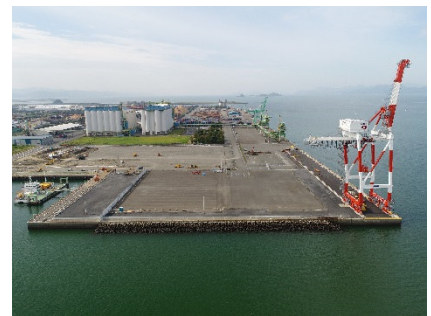
- 西部には、豊富な魚介類を育む雄大な八代海と広大な干潟の海辺景観が広がっています。
- 八代海に注ぐ球磨川の河口港として発展してきた八代港は、県下最大の重要港湾であり、南九州の国際的な物流拠点としての役割を果たしています。平成29年7月には国の国際旅客船拠点形成港湾に指定され、海外からの大型クルーズ船の寄港が増えています。
- 八代港の周辺には工場が集積し、八代海を背景にした工場群は、特徴的な景観のひとつとなっています。
- 西側一帯に海域が広がっているため、龍峯山自然公園展望台をはじめとする各所から、八代海に映える美しい夕日を眺めることができます。
- 日本書紀や万葉集にも記された国指定名勝「不知火及び水島」は、夕日と干潟をセットで見ることができる眺望スポットとなっています。
- 八代港からは、三ツ島・雲仙・天草への眺望や八代海を背景にした工場群と夕日の景観が楽しめます。
- 八代海の球磨川河口部を中心とする干潟には、多くの貴重な干潟生物が生息し、シギ・チドリ類の飛来地になっています。
- 八代海沿岸には、干拓事業後に島が陸続きとなった、特徴的な景観がみられます。



▲大型クルーズ船



▲工場地のクレーン群



▲八代海と工業景観



▲水島と夕日



▲三ツ島・雲仙・天草への眺望



▲球磨川河口干潟と夕日



▲シギ・チドリ類の飛来地



▲展望台からの夕日



▲陸続きになった大島

●八代海に注ぐ雄大な球磨川や氷川などの「河川景観」

- 市の中央部を貫き八代海に注ぐ球磨川や氷川、流藻川等の河川は、水と緑の景観軸を形成しています。
- 球磨川などの美しい清流には、希少生物や植物が多数生息し、河川沿いには季節や時間の変化に富んだ自然景観が広がっています。
- 球磨川の悠然とした流れは、市のシンボルとなっており、川を渡る橋や土手からは市街地景観ややまなみ景観などを遠望することができます。
- 河川沿いは、散歩やサイクリングなど、レクリエーションの場として多くの人々に利用されています。特に球磨川の河川敷には、球磨川河川敷スポーツ公園が整備され、ソフトボールやサッカー等のスポーツや「やつしろ全国花火競技大会」などのイベントを楽しむ人が、数多く訪れています。また、流藻川や水無川沿いは、自然を楽しむ川辺の散歩道として人気があります。
- 球磨川では、加藤清正公が造成したとされている「八の字堰」を参考にした歴史的遺構の復元や瀬・渚の再生への取り組みがなされています。



▲球磨川



▲氷川



▲流藻川



▲宮地親水公園



▲紫陽花ロード（球磨川右岸）



▲やつしろ全国花火競技大会
（球磨川河川敷）



▲前川



▲大鞘川

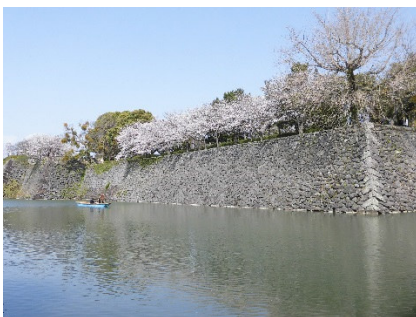


▲水無川

②歴史・文化的な景観

●八代城跡周辺や日奈久温泉街、五家荘、石橋群などの「歴史的景観」

- 城下町として栄えた中心市街地周辺には、八代城跡や松浜軒、薩摩街道沿いの町家、徳川の津跡、蛇籠の船着場が、宮地地区には、「妙見さん」と呼ばれ親しまれる八代神社（妙見宮）、春光寺、紙漉き水路などの風情ある歴史的景観が残っています。
- 600年の歴史を持つ日奈久温泉街は、熊本県内で最も古い温泉のひとつであり、なまこ壁や木造建造物の街並みが残り、栈敷の相撲場がある日奈久温泉神社からは、日奈久の市街地と八代海の広がりのある景色を眺めることができます。
- 八代平野の山裾に位置する高田地区は、中世の灌漑^{かんがい}で開拓された地域で、各集落に細い路地と笹垣があり、南北朝時代の古い地名や征西府・御所の跡が残っています。また、「遙拝さん」と呼ばれる豊葦原神社からは球磨川と市街地が一望できます。
- 龍峯地区には、修験道の霊峰「竜峰山」があり、巨石を組んだ鬼の岩谷式古墳が里の中に点在する特徴的な景観がみられます。また、七百町新地干拓の際の古麓用水が薩摩街道に沿って流れ、石灰岩がむき出しになった登山道も特徴的な景観のひとつです。
- 坂本地区には、球磨川とその支流沿いに集落群があり、集落内の「セドヤミチ」と呼ばれる細い路地や小さなお堂・神社が大切に守られています。また、深水発電所跡や鮎尾発電所跡が産業遺産として残されています。
- 平家の落人伝説で知られる秘境「五家荘」には、歴史的建造物が多く存在し、東陽地区には、四季折々の風景と一体となった石橋群が点在しています。



▲八代城跡



▲八代神社（妙見宮）参道



▲八代宮参道



▲日奈久温泉街の木造建造物



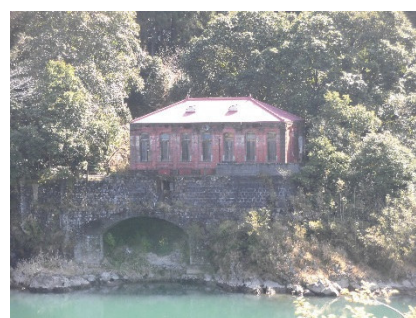
▲日奈久温泉神社の栈敷・相撲場



▲豊葦原神社（遙拝神社）



▲五家荘（緒方家）



▲深水発電所跡



▲笠松橋

●八代妙見祭や樅木神楽、干拓地・田園景観、棚田などの「文化的景観」

- ユネスコ無形文化遺産に登録された八代神社（妙見宮）の八代妙見祭神幸行事、植柳の盆踊、泉町の久連子古代踊りや樅木神楽、千丁町の女相撲、鏡町の大鞆節など、生活文化に醸成された文化的景観が数多く存在しています。
- 各集落に残る「お堂を中心とした小さな祭り」や「年中行事」は、暮らしに密着した文化的景観を形づくっています。
- 西部には、球磨川が運び出す土砂によって形成された沖積平野と16世紀後半から進められてきた八代海の干拓事業により、広大な八代平野が形成されています。
- 八代平野には、日本一の生産量を誇る草や水稻、トマト等の野菜栽培を通した四季折々の田園景観が広がっています。
- 水を引き入れるための用水路である井手や洗い場は、生業から生まれた特徴的な景観のひとつとなっています。
- 球磨川は、古くから物流の交流軸として使われてきたことから、瀬や岩には、昔からの生業に由来した名称が付けられています。
- 干拓地には、干拓事業の遺産である国指定重要文化財の旧郡築新地甲号樋門や県指定史跡の大鞆樋門群等があり、八代を特徴づける景観のひとつとなっています。
- 山間部には、美生の棚田をはじめとする生姜畑や水稻の棚田、茶の段々畑など一体となった山村集落が点在し、文化的景観を形成しています。



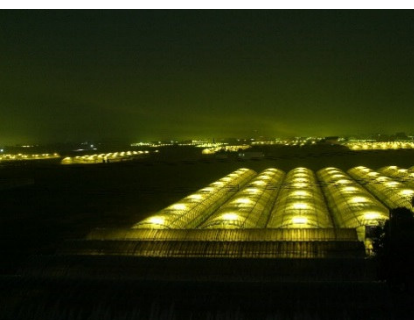
▲八代妙見祭（笠鉾）



▲千丁町女相撲



▲田園景観



▲ビニールハウスの夜景



▲久連子古代踊り



▲旧郡築新地甲号樋門



▲茶の段々畑



▲植柳の盆踊り



▲井手・洗い場

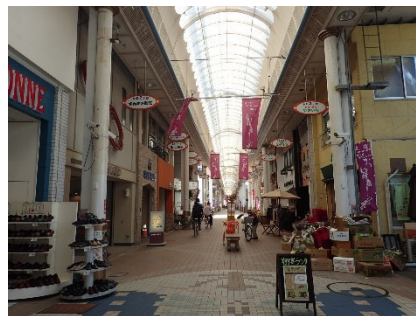
③まちなみ景観

●市役所周辺、本町アーケード商店街、日奈久温泉街などの「市街地景観」

- 江戸時代から城下町として栄えた中心部には城下町の町割りが今も残り、市街地を形づくる基盤となっています。
- 城下町を通る薩摩街道沿いに町が配置されてきたことから、八代城跡や市役所、本町アーケード商店街を中心としたエリアに市街地景観が広がっています。
- 日奈久温泉街や鏡地区など都市計画区域内の幹線道路沿いにも市街地景観が広がっています。
- 明治時代より製紙工場等が立地し、県内有数の工業地帯として発展してきたことから、工場の煙突群が、市街地景観の特徴のひとつとなっています。
- 現在、市役所の新庁舎整備が進められており、庁舎を中心としたエリアの景観整備に注目が集まっています。
- 市役所周辺には、八代市立博物館や八代警察署などの近代的な建築物があり、洗練された都市景観がみられます。
- 竜峰山等の山々からは市街地の美しい夜景を眺めることができます。



▲城下町の風情を残すまちなみ



▲本町アーケード商店街



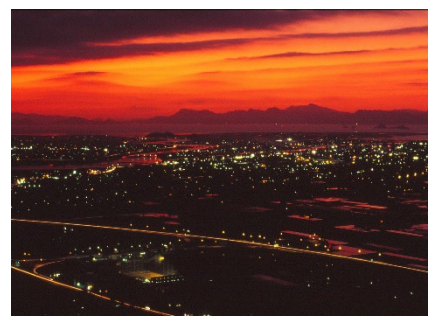
▲市街地の工業景観（煙突群）



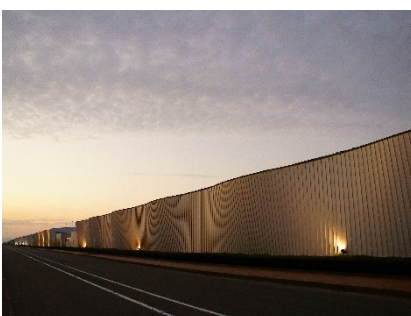
▲日奈久温泉街



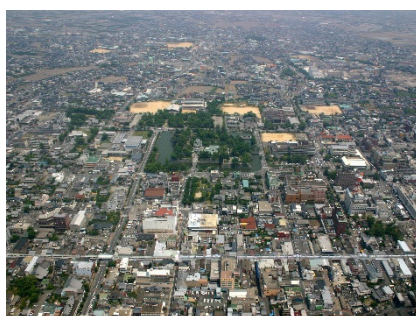
▲八代市立博物館



▲市街地の夜景



▲八代港付近の工業景観



▲中心市街地（市役所周辺）



▲八代警察署

●景観の骨格軸としての「幹線沿道景観、鉄道沿線景観」

- 市内を南北に走る国道3号、国道219号、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道、主要地方道八代鏡宇土線、並びに東西に走る国道443号、県道八代港線（八代臨港線）などは、幹線道路として人々の活動を支えています。
- 国道3号、主要地方道八代鏡宇土線、県道八代港線（八代臨港線）などの幹線道路の沿道には、商業施設が集積し、賑わいのある沿道景観となっています。
- JR鹿児島本線、肥薩おれんじ鉄道、JR肥薩線、九州新幹線の車窓からは、広大な干拓地や八代海、球磨川の清流、線路沿いに広がる晩白柚畑や高田みかん畑など、八代ならではの美しい景観を眺めることができます。
- JR肥薩線が球磨川と並走する区間には、球磨川第一橋梁、第二球磨川橋梁があり、平成29年12月に、日本イコモス国内委員会が選ぶ後世に残したい「日本の20世紀遺産20選」に選定されました。また、橋梁のほかにも、連続する石積・煉瓦積のトンネルや擁壁など、歴史的な鉄道沿線景観が残されています。
- 自転車歩行者専用道路として整備された「八代緑の回廊線」は、四季折々の花々や「せせらぎ水路」により、“やすらぎ”と“うるおい”のある憩いの空間として多くの人に利用されています。



▲国道3号（電線地中化）



▲県道八代港線（八代臨港線）



▲八代緑の回廊線



▲新八代駅



▲肥薩おれんじ鉄道と八代海



▲肥薩おれんじ鉄道と晩白柚畑



▲球磨川橋梁と球磨川大橋



▲九州新幹線沿線の菜の花畑



▲球磨川第一橋梁

(4) 景観の主な問題点と課題

①自然景観

●良好なやまなみ景観の保全

- 山間部の一部では、山肌の露出やソーラーパネル、携帯電話の電波塔などの工作物が、良好なやまなみ景観を阻害しているところが見られます。また、耕作放棄地や空き家・空き地なども、やまなみ景観を阻害している要因のひとつになっています。
- やまなみの眺望に配慮し、大規模な土地の改変に対する規制や周辺の自然環境と調和した建築物・工作物への景観誘導等による、やまなみ景観の保全・育成が必要です。
- 五家荘や溪谷の吊り橋、滝、自然公園の展望台など、本市を代表する眺望スポット周辺においては、重点的な景観保全・育成など効果的な景観づくりが必要です。
- 農林業振興との連携を図りながら、山地・丘陵地の荒廃を防ぎ、良好なやまなみ景観と山村集落地の景観を保全していくことが必要です。

●夕日の映える海辺景観の保全と「海の玄関口」の景観づくり

- 八代海の雄大な景観を活かすため、八代海沿岸や干潟周辺地域では、自然景観と調和した建築物・工作物への景観誘導等による、美しい海辺景観の保全・育成が必要です。
- 八代港の周辺地区では、国際クルーズ拠点に相応しい「海の玄関口」としての景観づくりが必要です。
- 八代海を背景にした工場群と夕日の眺望を活かす取り組みが必要です。
- ラムサール条約湿地への登録など大規模な干潟の保全に関する取り組みが必要です。

●人々に親しまれる美しい河川景観の保全・活用

- 多くの人々に親しまれ、眺望が開ける河川沿いの景観は、身近で人目につきやすいため、ごみや雑草が他の場所に比べて目立つように感じられます。
- 河川沿いに派手な建築物や工作物が存在したり、ごみが散乱していると、河川沿いの景観が荒廃している印象を受けます。
- 多様な生物・植物の保全とともに、ごみ拾いや草刈りなど、河川景観の保全が必要です。
- 河川沿いは散歩などの利用が多いため、水辺と触れ合う自然護岸整備等の親水性の向上や“眺めの小路”と河川ネットワークとの連携による河川景観の活用が必要です。

②歴史・文化的な景観

●多様な歴史的景観の保全・活用

- 国指定史跡のひとつである八代城跡は、平成２８年熊本地震で石垣が壊れ、平成３０年に修復が完了しました。この他にも市内の文化財が地震で被害を受け、修復作業が進められています。
- 一方、文化財に指定されていない町屋や木造建築物などは、その価値が十分に認識されていないため、居住者がいなくなれば、空き家・空き地となって管理されなくなり、すぐに取り壊されてしまう可能性があります。
- 日奈久温泉街や八代神社（妙見宮）周辺などでは、空き家・空き地が増え、歴史的景観が徐々に失われつつあります。
- 歴史的資源の周辺に空き家・空き地があつたり、調和しない建築物や工作物が建つたりすると、歴史的な趣が損なわれてしまいます。
- 風情ある歴史的景観を先人から受け継がれた財産と捉え、風格のある景観の保全を図るとともに、空き家・空き地の有効活用が必要です。
- また、球磨川の「八の字堰」復元のような歴史的遺構を継承していくことも大切な取り組みのひとつです。

●文化の継承と文化的景観の保全・活用

- 八代妙見祭神幸行事が行われる八代神社（妙見宮）周辺は、一般的な住宅地となっているため、ユネスコ無形文化遺産登録の機運を盛り上げ、歴史と文化の趣を感じられる景観づくりが求められています。
- 生活文化に醸成された神事・催事などのほか、各集落に昔から残る暮らしに密着した「お堂を中心とした小さな祭り」や「年中行事」などの継承も必要です。
- 干拓地や山間部の棚田がつくり出す文化的景観の保全を図るためには、農林業振興との連携が不可欠です。生業との連携を図るとともに、樋門群などと調和した広がりのある干拓地景観の保全や棚田等の文化的景観を保全・活用することが必要です。

③まちなみ景観

●賑わいとうるおい、落ち着いたある市街地景観の創出

- 県道八代港線（八代臨港線）沿道には、大規模商業施設が集積し、賑わいのある沿道景観がみられます。その一方で、ＪＲ八代駅周辺や本町アーケード商店街、日奈久温泉街には、空き店舗・空き地がみられ、賑わいが乏しい状況となっています。
- 市民意向調査では、八代市の悪い景観として「廃屋・空き家が目立つ」が最も多く挙げられています。これらの地区では、空き店舗・空き地の改善・活用を図るとともに、一定のコンセプトに基づく統一感のあるまちなみ景観形成のルール化が必要です。
- 本町アーケード商店街の土曜夜市や日奈久温泉街の路地を活用したまちづくりなど、まちの賑わいを創出する活動による「賑わいの景観づくり」が必要です。
- 市街地から眺望できる工業景観の活用や新庁舎周辺の八代城跡と一体となった落ち着いた風格のある景観整備が必要です。
- 市街地周辺の干拓農地には、市街地のスプロール化が進行し、住宅の開発が行われている地区があります。これらの地区では、周辺の田園景観と調和したまちなみの景観づくりが必要です。

●幹線道路や鉄道沿いの良好な沿道景観づくりと「陸の玄関口」の景観づくり

- 国道３号、主要地方道八代鏡宇土線、県道八代港線（八代臨港線）などの幹線道路の沿道には、商業施設が集積し、派手な色彩の建築物・屋外広告物が他の地区より多くみられます。
- 景観の骨格を形成する幹線道路の沿道や鉄道沿線は、建築物・工作物・屋外広告物の色彩や大きさの規制等による良好な景観づくりが必要です。
- 幹線道路の街路樹や工作物などの適切な維持管理による景観づくりが必要です。
- 田園の中を抜ける幹線道路沿道や鉄道沿線では、周辺の田園景観と調和した景観づくりが必要です。
- 干拓地の風景、晩白柚畑や高田みかん畑、球磨川の清流など、八代ならではの景観を活かすテーマ性をもった景観づくりが望まれます。
- 九州新幹線の新八代駅周辺やインターチェンジ周辺地区においては、周辺のまちなみや背景となるやまなみ景観と調和した建築物・工作物への景観誘導等による、「陸の玄関口」に相応しい景観づくりが必要です。

④まとめ

- このように、本市は、自然、歴史・文化、まちなみの景観特性ごとに特徴ある価値を有しており、それらが重なり合って八代固有の美しい景観を構成しています。
- しかしながら、市を取り巻く様々な社会的変化の中には、景観の持つ価値が損なう方向に向かうと懸念されるものもあり、その社会的な影響を視野に入れながら、景観の価値を守っていくための仕組みづくりが必要となります。
- 現在、清掃活動や庭先緑化など、市民による自主的な景観づくりの動きは見られますが、まだ一部の活動として留まっており、景観に対する市民の意識は決して十分とはいえません。
- このような市民の景観形成意識に対して、その更なる啓発のきっかけとなり、市民・事業者・行政の協働による景観形成につなげていくため、新たな景観まちづくりの考え方・方策が強く求められています。

第5節 “眺めの小路”を用いた景観まちづくり

(1) “眺めの小路”とは

八代市景観計画では、市の顔となる場所の景観づくりに加えて、市民が考える「身近な生活景観」を大切に景観づくりを進めていきます。

地域住民の長年にわたる自然への働きかけ、風土に根ざした伝統的な生活様式、土地への愛着などの結果として生み出され、維持・管理されてきた「身近な生活景観」は、八代らしさを構成する重要な要素であり、今後、保全・育成していくべき景観です。

この「身近な生活景観」を保全・育成していくため、本計画では、“眺めの小路”に着目しました。“眺めの小路”とは、八代市を特徴づける景観や守り育てていきたい景観を、眺め、楽しみながら歩くことができる小路です。本計画では、“眺めの小路”を景観まちづくりの活動の場として位置付けています。

(2) 景観まちづくりにおける“眺めの小路”の有効性

主として地域住民が日常生活で利用する“眺めの小路”は、「身近な生活景観」を眺めるための良好な視点場になると同時に、地域住民の交流の場ともなります。

また、“眺めの小路”は、歩行者や自転車のほか、自動車も利用します。様々な種類の移動手段が共存している場所では、お互いが譲り合い、ゆっくりとした速度で移動が行われることから、利用者は、道端に咲く花や、せせらぎの音などの細かな部分にも気づきやすく、その地域ならではの魅力的な景色を楽しむことができます。

このように身近な存在である“眺めの小路”を通じて、市民が景観に対する関心を高め、自分にできる範囲で景観まちづくりに取り組むことにより、協働による景観まちづくりが推進されることが期待できます。

(3) 八代市の“眺めの小路”

八代市では、自然豊かな風景やまちなみ、歴史文化遺産などを楽しむことができるウォーキングコースやサイクリングロードが各地域に設定されており、市民の憩いの空間となっていることから、これらを主要な“眺めの小路”として位置づけることとします。

また、市内の河川沿いや幹線道路、鉄道沿線は、市民や来訪者など多くの人が利用する空間であるとともに、各地域を貫く骨格の役割を果たすことから、これらを「景観軸」として設定し、“眺めの小路”を検討する際に配慮することとします。



▲八代市内の“眺めの小路”イメージ

(4) “眺めの小路”を用いた景観まちづくりのあり方

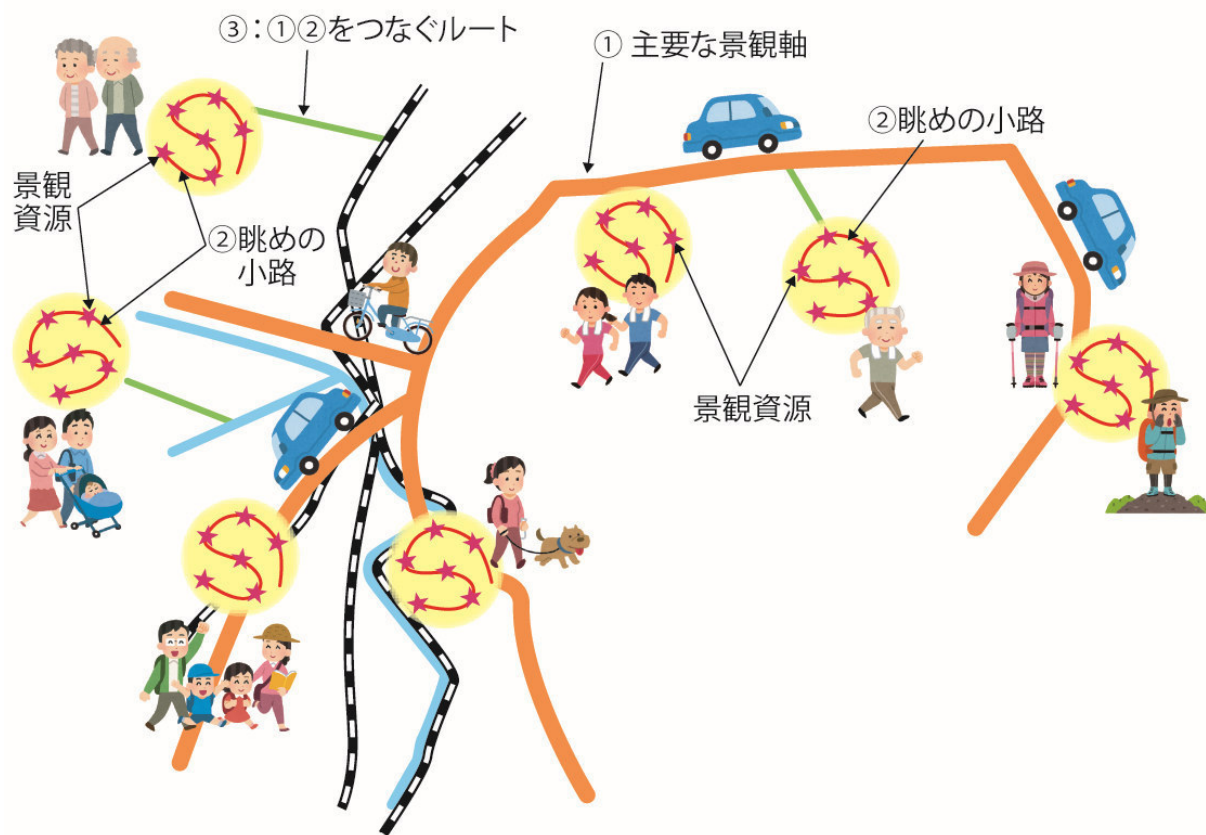
主要な景観軸である河川や幹線道路、鉄道と、主要な“眺めの小路”と位置づけられるウォーキングコースやサイクリングロードとをつなぎ、「眺めの小路」ネットワークを構築することで、市全域に回遊性や連続性が生まれます。

将来的には、“眺めの小路”に近接する公共施設などを、各“眺めの小路”をつなぐ結節点とすることで、徒歩から自転車や自動車、公共施設への乗り換えを可能とし、“眺めの小路”ネットワークの広がりや利用促進が期待できます。

また、そこに生活者の営みや市民活動によって手が加えられ、“暮らしの社会基盤”としての“眺めの小路”の機能が向上することにより、市民や来訪者の誰もが景観を楽しみながら快適に過ごすことができる空間を創出し、市全体の魅力あるまちづくりに寄与するものと考えます。

【“眺めの小路”ネットワークの構成】

- ① 主要な景観軸：河川景観軸、道路景観軸、鉄道景観軸
- ② ウォーキングコース＋サイクリングロード：
主要な“眺めの小路”と位置づけられる八代市の自然や歴史をたどるみち
- ③ 上記①②をつなぐルート：自動車・自転車での移動を基本とした①・②をつなぐコース



▲ “眺めの小路”ネットワークのイメージ

本編 景観計画

本計画の構成

第1章

景観計画の区域

- 第1節
景観計画の区域

第2章

良好な景観の形成に関する方針

- 第1節
基本目標
- 第2節
基本方針
- 第3節
景観構造別の景観形成方針
- 第4節
景観重点地区候補の景観形成方針

第3章

良好な景観形成のための行為の制限に関する事項

- 第1節
良好な景観形成に向けたしくみ
- 第2節
届出対象行為
- 第3節
景観形成基準
- 第4節
特定施設届出地区

第4章

景観重要建造物・景観重要樹木の指定の方針

- 第1節
景観重要建造物の指定の方針
- 第2節
景観重要樹木の指定の方針

第5章

景観重要公共施設の整備に関する事項

- 第1節
基本的な考え方
- 第2節
景観重要公共施設とは
- 第3節
景観重要公共施設の指定の方針
- 第4節
整備に関する事項等

第6章

屋外広告物の表示等の制限に関する事項

- 第1節
基本的な考え方
- 第2節
八代市の屋外広告物の現状と問題点
- 第3節
屋外広告物に関する景観誘導指針

第7章

景観づくりを推進するために

- 第1節
協働体制
- 第2節
計画の運用と体制
- 第3節
景観資源の活用

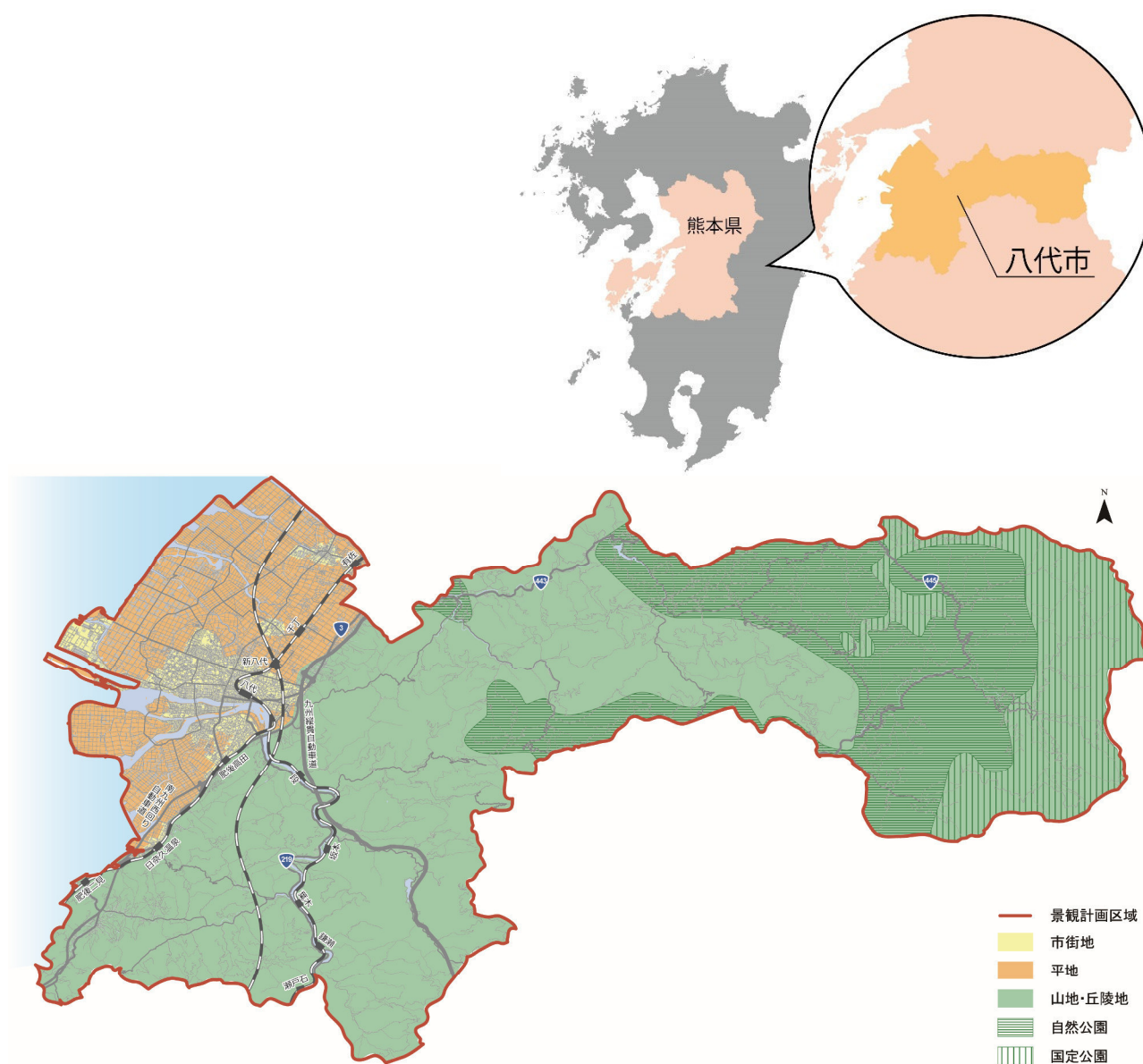
第1章 景観計画の区域

[景観法第8条第2項第1号]

第1節 景観計画の区域

八代市の景観構造を構成する要素としては、西部の八代海・干潟、東部の急峻な山々、雄大な球磨川や氷川などの美しい自然景観、八代城跡や神社などの各地に点在する歴史的景観、広大な干拓地や山間部に点在する集落地などの文化的景観、市役所周辺の中心市街地や日奈久温泉街をはじめとした市街地景観があり、本市の特徴的な景観を形成しています。

これらの多彩な景観要素の連携を図り、市全体での良好な景観づくりを進めるために、本市では、市全域（地先の公有水面を含む）を、景観法第8条第2項第1号に定める景観計画の区域とします。



▲景観計画区域

第2章 良好な景観の形成に関する方針

[景観法第8条第3項]

第1節 基本目標

八代市では、市のシンボルである球磨川に沿って開けた八代平野や、山間部・河川沿いの集落を中心に、古くから人々が暮らしや生業を営み、歴史・文化を育んできました。

八代市に住む私たちは、時間の流れとともに育まれてきた「故郷やつしろ」の景観を、現代の暮らしの風景として受け継ぎ、未来へ繋いでいく義務があります。

本市には、八代海や干潟、山なみ、球磨川などの「自然景観」、八代城跡や日奈久温泉街、五家荘、石橋群などの「歴史的景観」、八代妙見祭や樅木神楽、広大な干拓地や棚田などの「文化的景観」、さらに、自然・歴史を基盤として形成された「まちなみ景観」など、魅力ある景観資源が数多く存在しています。

これらの景観資源を大切に守り、育み、今後、時代の要請等により新しいものをつくる時は、今ある八代固有の景観と調和するように配慮します。

このような姿勢で、人と風景がともに輝きながら、住む人にとっても訪れる人にとっても心地よく、誰もが誇れるまちにしていくため、以下のように景観まちづくりの基本目標を定め、市民一人ひとりが熱意をもって景観まちづくりに取り組んでいきます。

基本目標

球磨川と時間の流れに育まれた
人と風景がともに輝くまち “やつしろ”

第2節 基本方針

(1) 景観形成の視点

本市の景観形成を取り巻く現状と、主な問題点・課題を踏まえ、効果的かつ効率的な全市の景観形成を進めるための基本方針として、次の3つの視点を設定します。

1 “八代らしさ”を醸成する景観資源の保全・育成

- 東部の九州中央山地から西部の八代海に至る、多様でダイナミックな地勢や市の骨格となる球磨川等の河川、幹線道路、鉄道などからなる景観構造は、“八代らしさ”を構成する大きな要素です。
- また、八代城跡や城下町の風情が残るまちなみ、日奈久温泉街、棚田が美しい山村集

落、五家荘や石橋群などは、特徴ある価値を有しており、各地に伝わる祭りや伝統行事などの歴史・文化的な景観と重なり合って“八代らしさ”を醸成しています。

- しかしながら、市を取り巻く様々な社会的変化の中には、景観の持つ価値が損なう方向に向かうと懸念されるものもあります。その社会的な影響を視野に入れながら、景観の価値を守っていくための仕組みづくりが必要です。
- そこで、全市域を対象とした景観計画を策定することにより、景観施策の実効性を高め、全市の景観の底上げを図るとともに、“八代らしさ”を醸成する景観を守り、育んでいきます。

2 新しい“八代ブランド”となる景観づくり

- 「八代妙見祭の神幸行事」が、ユネスコ無形文化遺産に登録され、ＪＲ肥薩線の球磨川第一橋梁、第二球磨川橋梁が、「日本の２０世紀遺産２０選」に選定されました。
- また、八代港への海外大型クルーズ船の寄港も増えており、国内外から本市への注目が集まっています。
- 市内には、干拓事業の樋門群と干拓農地が織りなすパッチワークの風景や夕日と工場群がセットになった風景、緑豊かな棚田の山村風景、四季折々の石橋群の風景、球磨川沿いや晩白柚畑を走る鉄道の風景など、市民が誇る景観が数多くあります。
- そこで、本市の多様な景観資源を広くアピールするため、心に残る「わがまち八代」のベストシーンをより良く見せる戦略的・重点的な「眺めの場」づくりに着目し、新しい“八代ブランド”となる景観づくりを進めていきます。

3 “八代市民が主体”の景観まちづくり

- 現在、清掃活動や庭先緑化など、市民による自主的な景観づくりの動きは見られますが、まだ一部の活動として留まっており、景観に対する市民の意識は決して十分とはいえません。
- このような市民の景観形成意識に対して、その更なる啓発のきっかけとなり、市民・事業者・行政の協働による景観形成につなげていくため、新たな景観まちづくりの考え方・方策が強く求められています。
- そこで、“眺めの小路”を中心に、身の回りから始める花植え、生垣の手入れ等の緑化活動など、市民が主体の景観まちづくりを進めていきます。

(2) 全市域の共通方針

景観構造によらない全市域の景観づくりに関する共通要素として、“歴史・文化”と“体制づくり”があります。

これらの要素は、八代市固有の景観を醸成する部分を担っており、景観まちづくりを進めるうえで非常に重要な役割を果たしています。

“歴史・文化”の要素は、市内に広く点在し、人々の暮らしや伝統行事などの文化的価値により、本市の魅力を高めています。

また、“体制づくり”は、景観計画をより実効性の高い計画にするために必要な要素です。

1) 歴史・文化に関する方針

●歴史資源の維持・保全と継承

- 本市は、八代城跡の堀や石垣、松浜軒や薩摩街道沿いに残る神社等をはじめ、数多くの歴史資源を有しています。
- 現在、球磨川では、加藤清正公が造成したと伝わる「八の字堰」を参考にした歴史的遺構の復元と、瀬・淵の再生に取り組んでいます。
- このような歴史資源の維持・保全と、次世代に継承していく取り組みが必要です。

●暮らしに根付いた文化的景観の維持・保全

- 本市には、干拓農地の用水路である井手や洗い場、宮地地区の紙漉き水路、棚田と一体となった山村集落、坂本地区の細い路地が残る球磨川沿いの集落など、文化的景観が今も残っています。
- これらの暮らしに根付いた文化的景観の維持・保全を図ることが必要です。

●祭りや伝統行事、民話等の文化の継承

- 本市では、八代妙見祭神幸行事をはじめとする祭り、各集落に残る「お堂を中心とした小さな祭り」や「年中行事」が、暮らしに密着した文化的景観を形づくっています。
- また、全国的に知られる「彦一とんち話」の舞台となった場所が点在しています。
- これらの祭りや地域の伝統行事、民話の舞台となった文化を守り、次世代に継承していく必要があります。

2) 体制づくりに関する方針

●景観まちづくりの気運の醸成

- きめ細かな景観づくりのためには、市民が主体となった草の根的な景観まちづくりが必要です。
- そのため、景観関連の計画づくりや整備プロセスの中で、景観まちづくりに対する勉強会・広報など、市民の意識啓発を促す工夫を織り込み、市民の景観に対する意識向上や景観まちづくりの気運を高める取り組みを行っていきます。

●景観形成に向けた体制づくりの推進

- 景観は、色彩を除いて定量化の難しい事象です。また、良好な景観形成のためには、全市域において、一概に同様のルールが有効とは限らず、地区ごとに周辺との調和を総合的に勘案しつつ、最適なデザイン等を検討していくことが必要となります。
- そのため、景観のルール自体が定性的で幅のある表現になることが多く、良好な景観形成は、運用者の裁量に委ねられる部分が多少なりとも存在します。
- そこで、良好な景観形成の将来にわたる担保を目的に、専門家を含む審査組織および臨機応変に対応できる体制づくりなど、実効性の高い景観形成に向けた運用システムを構築します。
- また、市民主体の景観まちづくりを促進するために、花植え等の緑化や建築物等の修景への助成など、活動を支援する制度の創設を検討します。

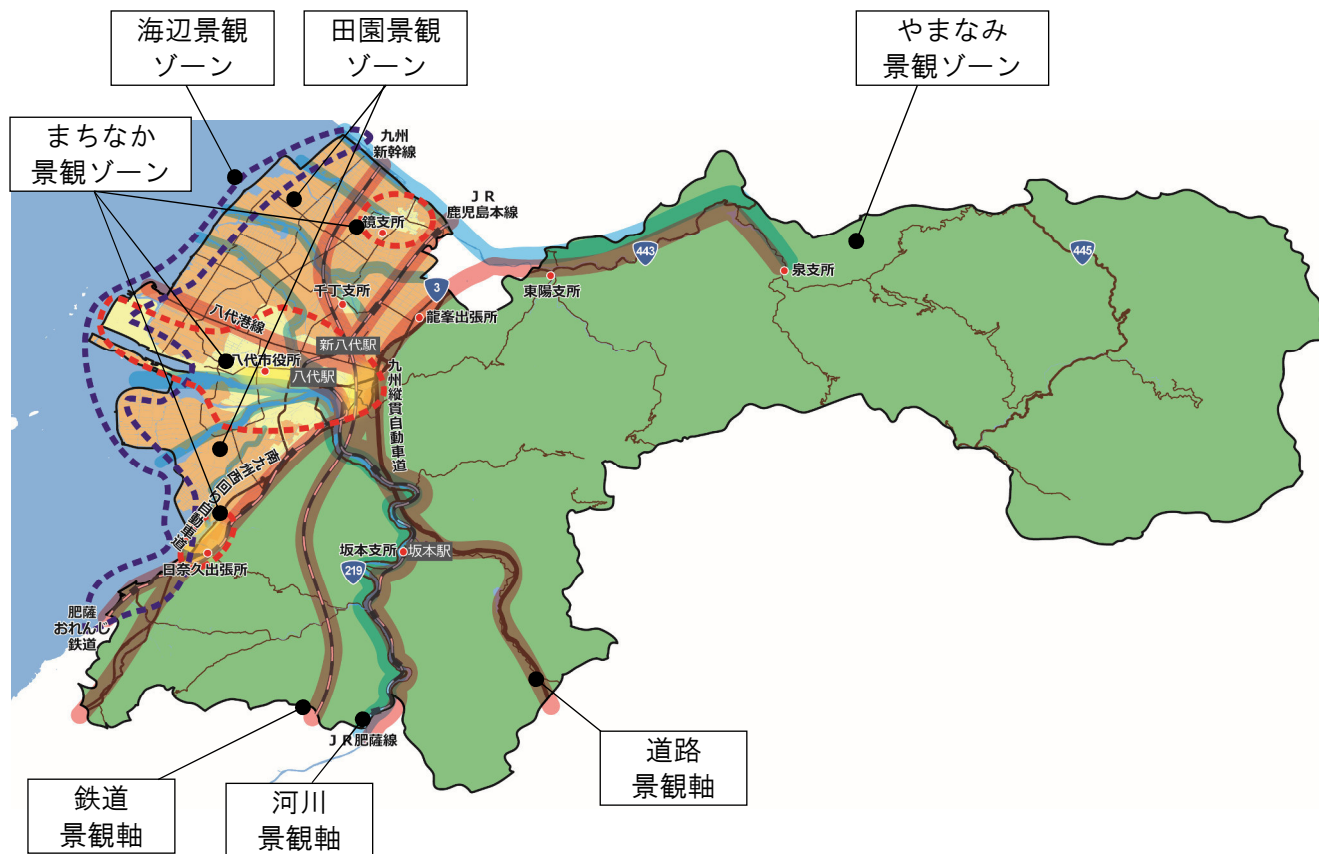
第3節 景観構造別の景観形成方針

景観形成の基本目標と基本方針を踏まえて、景観特性から区分した4つの景観ゾーンと3つの景観軸に分けて、それぞれの景観形成方針を設定します。

なお、景観形成方針の検討にあたっては、「八代市景観まちづくり会議」で抽出した景観まちづくり活動の主なフィールドとなる“眺めの小路”からの景観を主眼に置きました。

▼景観ゾーン・景観軸のイメージ

景観ゾーン・景観軸	概 要	主要要素
やまなみ景観ゾーン	東部の山間部を中心とした地域	山地、丘陵地、山村集落、棚田
海辺景観ゾーン	西部の八代海沿岸地域	八代海、干潟、工業地
まちなか景観ゾーン	中心市街地、用途地域内市街地	中心市街地、郊外住宅地
田園景観ゾーン	干拓地・田園を中心とした地域	田園、田園集落
河川景観軸	主な河川沿い	河川
道路景観軸	主な幹線道路沿い	幹線道路
鉄道景観軸	鉄道沿い	鉄道



▲景観ゾーン・景観軸のイメージ図

(1) やまなみ景観ゾーン

①特性

- 九州中央山地国定公園や五木五家荘県立自然公園等を中心とした景観ゾーンです。
- 四季折々の変化に富んだ緑の景観が、地域の人々や訪れる人の目を楽しませています。
- 山間部には、美生の棚田をはじめとする生姜畑や水稻の棚田、茶の段々畑など一体となった山村集落が点在し、文化的景観を形成しています。

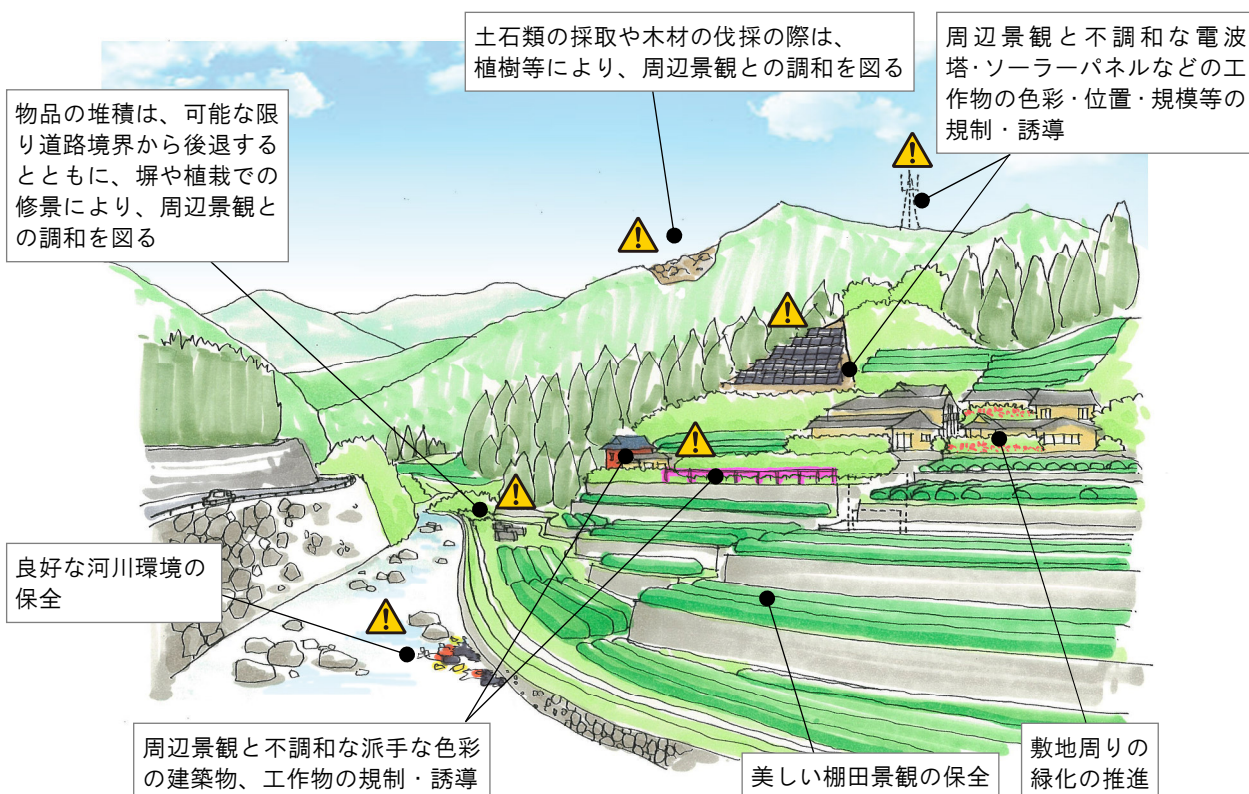


②課題

- 農林業振興との連携による良好な山並み景観と山村集落地等の景観保全
- 棚田のオーナー制度や石垣保全の取り組みによる棚田の景観保全
- 吊り橋、滝、展望台など、眺望スポット周辺の重点的な景観保全・育成
- 山村集落や棚田などを中心とする”眺めの小路”沿線の重点的な景観誘導

③景観形成方針

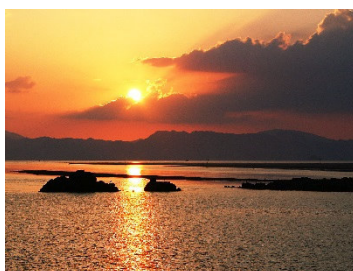
九州中央山系の山林や棚田の維持保全を図り、
四季の移ろい^めを愛でる、谷あいの里の景観づくり



(2) 海辺景観ゾーン

①特性

- 雄大な八代海や干潟の海岸線を含む景観ゾーンです。
- 八代港からは三ツ島・雲仙・天草を見渡すことができ、八代海を背景にした工場群やクルーズ船の景観が楽しめます。
- 海域が、西部一帯に広がっているため、各所から八代海に映える美しい夕日を眺めることができます。特に国指定名勝「不知火及び水島」は、夕日と干潟をセットで見ることができる眺望スポットです。
- 干潟には、多くの貴重な干潟生物が生息し、シギ・チドリ類の飛来地となっています。

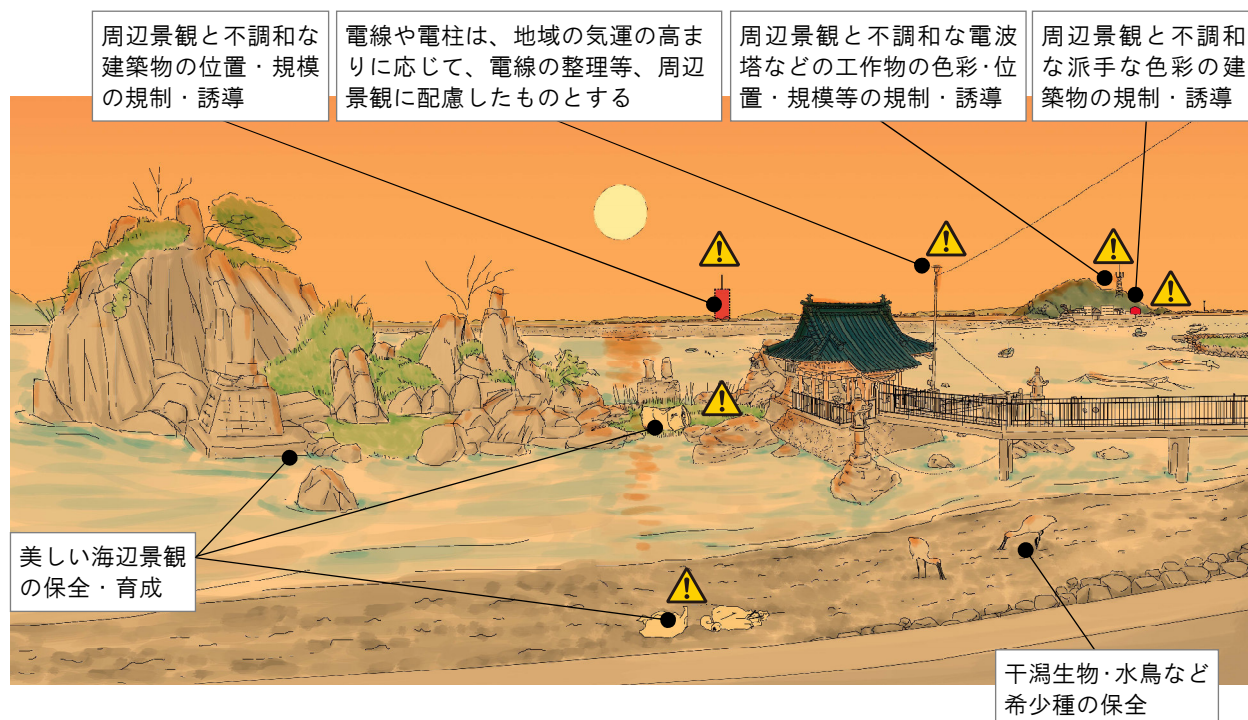


②課題

- 八代海や干潟の良好な海辺景観・自然環境、貴重な干潟生物の保全
- 海辺景観との調和や夕日と海岸線への眺望に配慮した景観誘導
- 背景となる八代海の景観と調和した良好な工業景観の育成
- 国際クルーズ拠点に相応しい八代港の「海の玄関口」としての景観形成

③景観形成方針

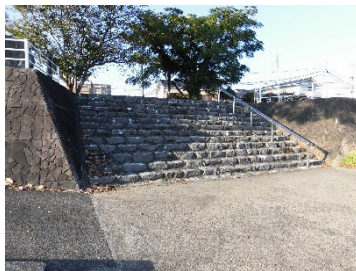
夕日が美しい八代海の豊かな自然環境の保全・活用に努め、
夕暮れに島かげ映える 海辺の景観づくり



(3) まちなか景観ゾーン

①特性

- 中心市街地の住宅地や商業地を中心とした景観ゾーンです。
- 本市中心部には、江戸時代から続く薩摩街道沿いの城下町の町割りが今も残り、市街地を形づくる基盤となっています。
- 城下町の風情が残る細い路地と町屋が点在し、近くには本市の経済・産業発展の起点となった貿易港「徳湊の津跡」や「蛇籠の船着場」などの歴史的景観が残っています。

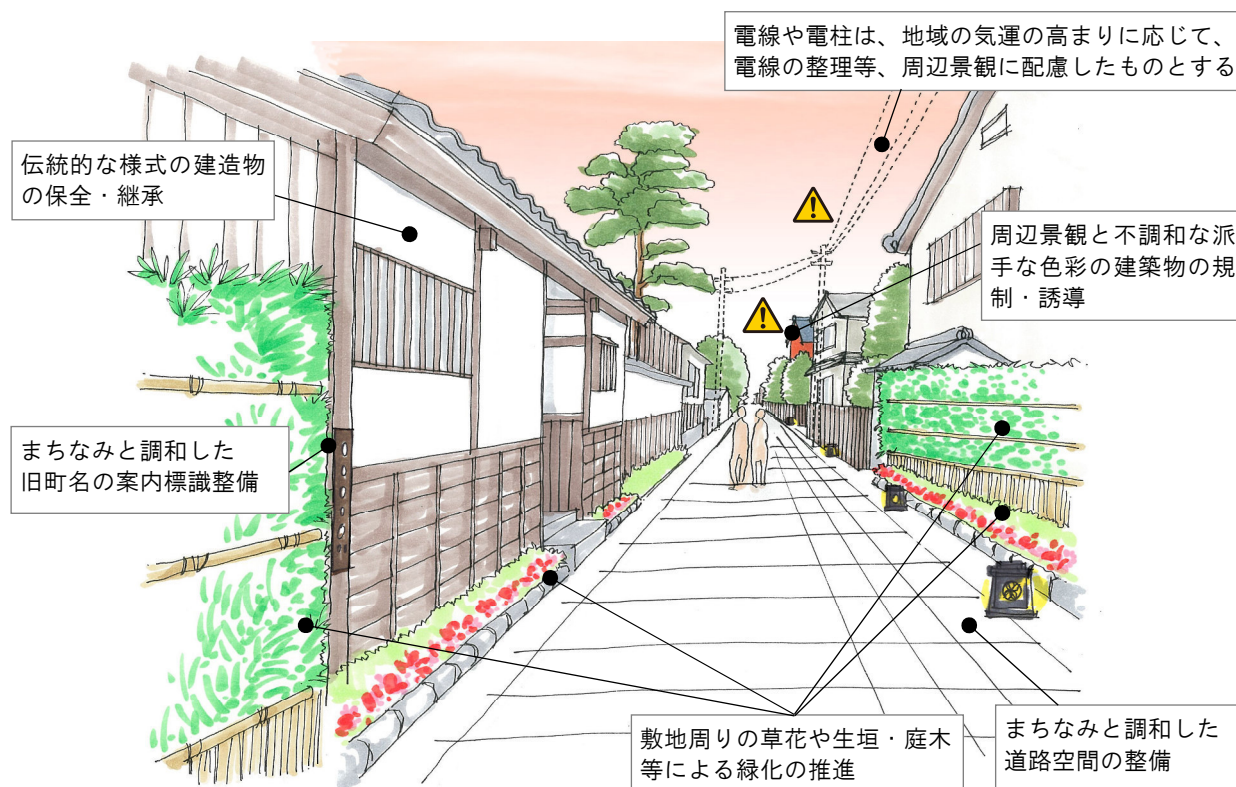


②課題

- 伝統的な様式の建造物、城下町の風情が残るまちなみの保全・継承
- 「徳湊の津跡」や「蛇籠の船着場」などの歴史的景観の保全
- 市民・事業者との協働による緑豊かな住環境の保全・育成

③景観形成方針

城下町の風情と調和した まちを歩いて楽しめる薩摩街道沿いの景観づくり



①特性

- 郊外部の住宅地を中心とした景観ゾーンです。
- 市街地周辺の郊外部では住宅地の開発が進み、公共施設の整備と併せて、暮らしに潤いや安らぎを与える快適な環境づくりが求められています。

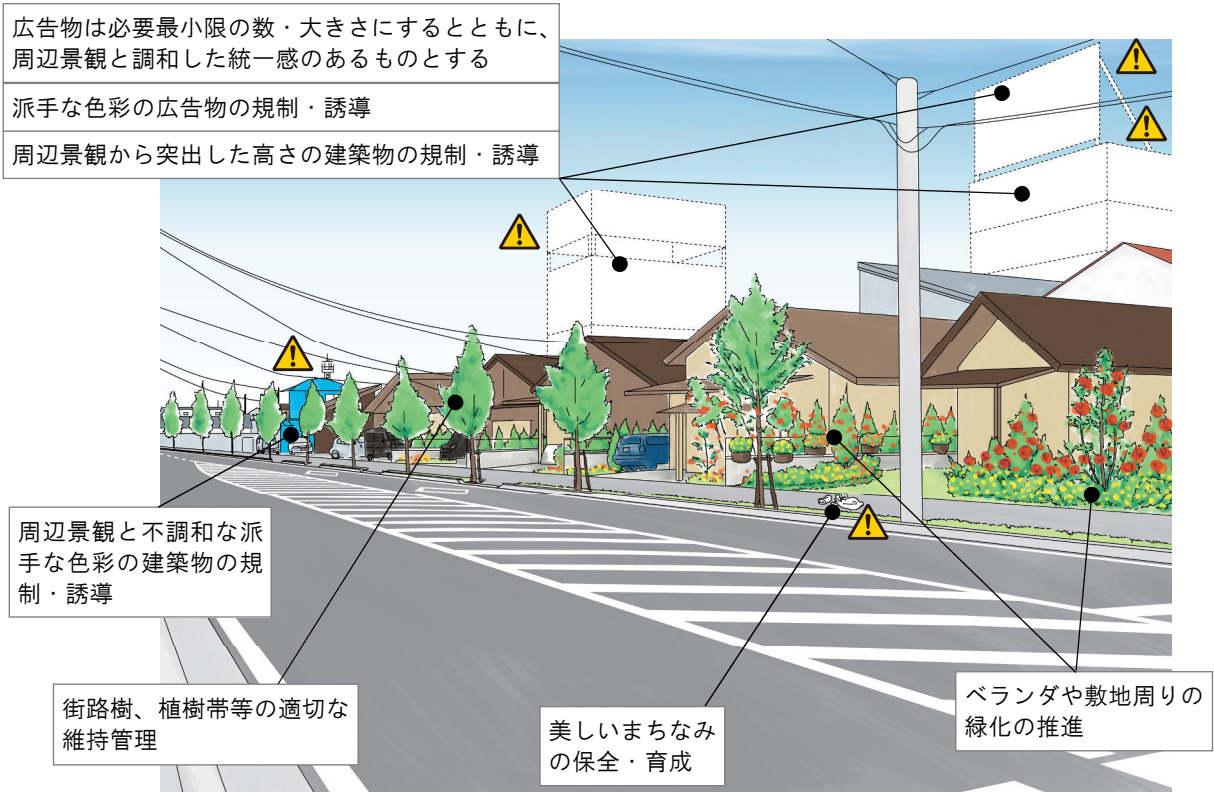


②課題

- 統一感のある良好なまちなみの形成
- 市民主体の緑あふれる住環境の保全・育成
- 街路樹や敷地外縁部の緑化などによる沿道景観の保全・育成

③景観形成方針

良好で魅力的な住環境の形成を図るとともに、
緑豊かなガーデンシティの景観づくり



(4) 田園景観ゾーン

①特性

- 四季折々の田園景観が広がる干拓農地を中心とした景観ゾーンです。
- 西部には球磨川が運び出す土砂によって作られた沖積平野と、16世紀後半から進められた八代海の干拓事業により、広大な八代平野が形成されています。
- 干拓農地では、日本一の生産量を誇るい草や水稻、野菜の栽培が行われています。
- 干拓事業の遺産である樋門群や水を農地に引き入れるための用水路である井手、洗い場があり、八代を特徴づける景観のひとつとなっています。

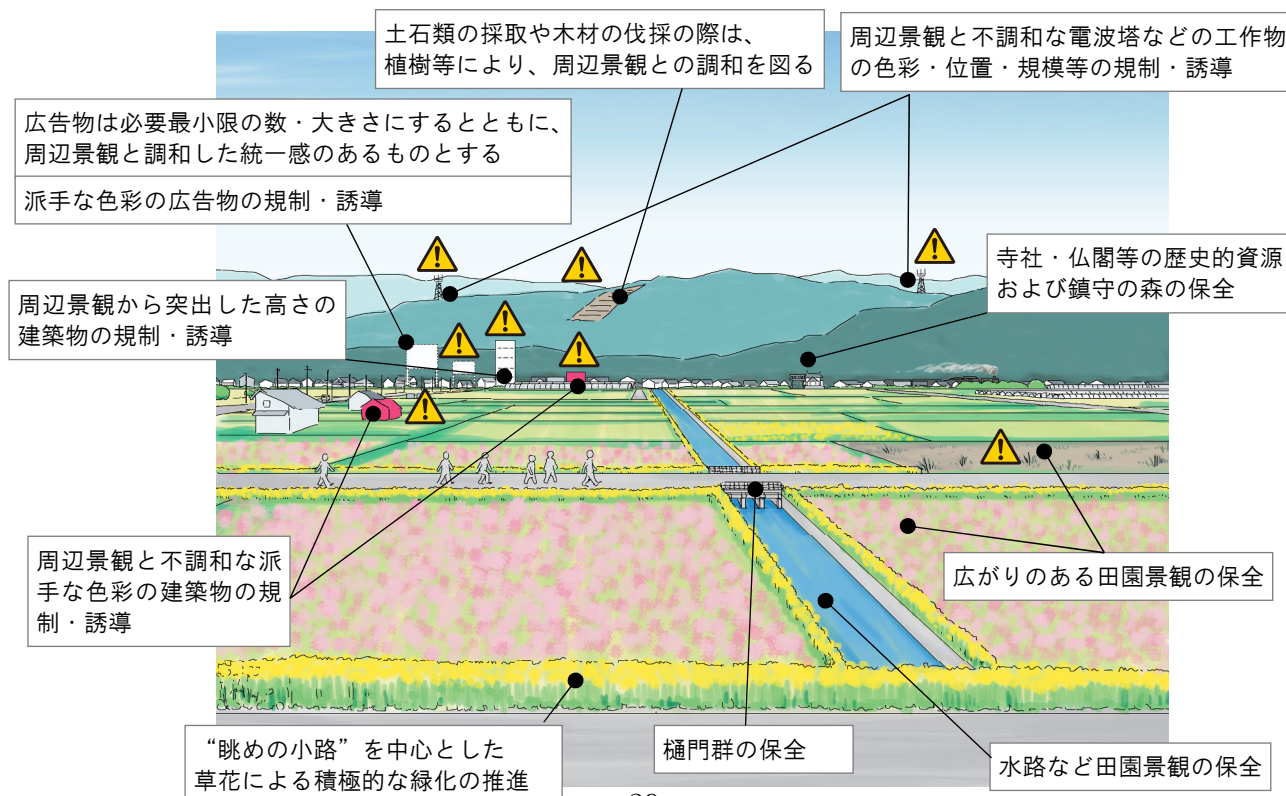


②課題

- 農業振興との連携による良好な田園・集落地景観の保全
- 干拓事業の遺産「樋門群」の保全・活用
- 用水路や洗い場等の生業に根付いた文化的景観の保全
- “眺めの小路”沿線の積極的な花植え活動、緑化の推進

③景観形成方針

八代平野の田園景観を守り、継承するとともに、
干拓農地に広がる 四季折々の景観づくり



(5) 河川景観軸

①特性

- 市内を流れる球磨川や氷川水系、流藻川等の河川とその周辺に広がる景観軸です。
- 球磨川の悠然とした流れは市のシンボルとなっており、川を渡る橋や土手からは市街地景観ややまなみ景観などを遠望することができます。
- 河川沿いは、ウォーキングやサイクリングなどの利用者が多く、身近に自然を感じることでできる川辺の散歩道として人気があります。

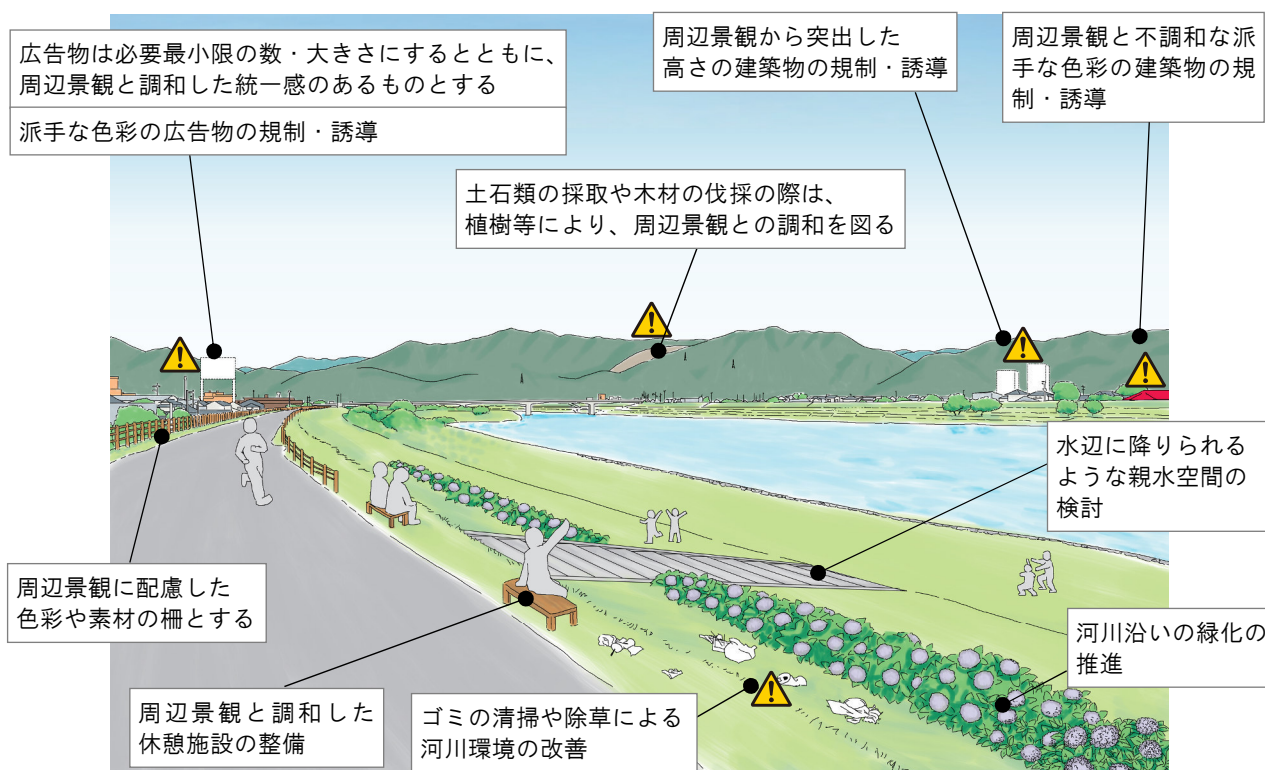


②課題

- 河川沿線からの眺望に配慮した景観誘導
- 土手沿いの草刈り・花植え活動による良好な河川景観の維持・向上
- 潤いのある良好な河川環境を活用する親水空間の創出

③景観形成方針

球磨川や氷川水系などの豊かな親水空間と、
流れに寄り添う散歩道の景観づくり



(6) 道路景観軸

①特性

- 人々の活動を支える国道3号や国道219号、国道443号、主要地方道八代鏡宇土線、県道八代港線（八代臨港線）、九州縦貫自動車道などの沿線の景観軸です。
- 国道3号や主要地方道八代鏡宇土線、県道八代港線（八代臨港線）の沿線には商業施設が集積し、賑わいのある沿道景観となっています。
- 幹線道路は、自動車交通量が多いことから、沿線の一部や交差点には、派手な色彩の店舗や大規模な広告物が見られます。

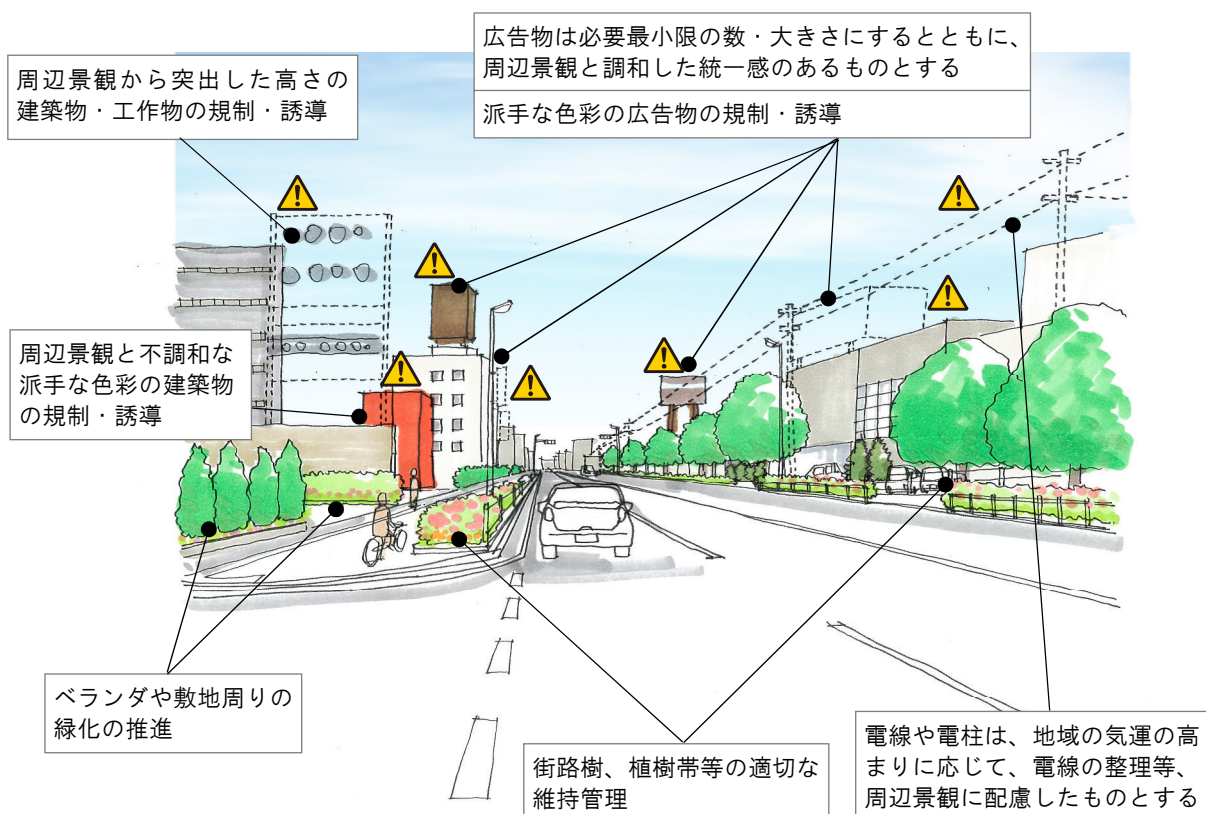


②課題

- 周辺の住環境・田園景観と調和のとれた沿道景観の創出
- 街路樹の維持管理や敷地周りの花植え活動による良好な沿道景観の維持・向上
- 沿道商業施設や大型屋外広告物等の色彩・規模の規制・誘導

③景観形成方針

周辺環境と調和し、暮らしを支え、にぎわいを運ぶ大動脈の景観づくり



(7) 鉄道景観軸

①特性

- 市内を南北に走る鉄道沿線の景観軸です。
- J R鹿児島本線、肥薩おれんじ鉄道、J R肥薩線、九州新幹線の車窓からは、広大な干拓地や八代海、晩白柚畑や高田みかん畑、球磨川の清流など、八代ならではの美しい景観を眺めることができます。
- J R肥薩線の球磨川第一橋梁、第二球磨川橋梁は、「日本の20世紀遺産20選」に選定されました。また、SLの走る風景は、特徴的な景観の一つとなっています。

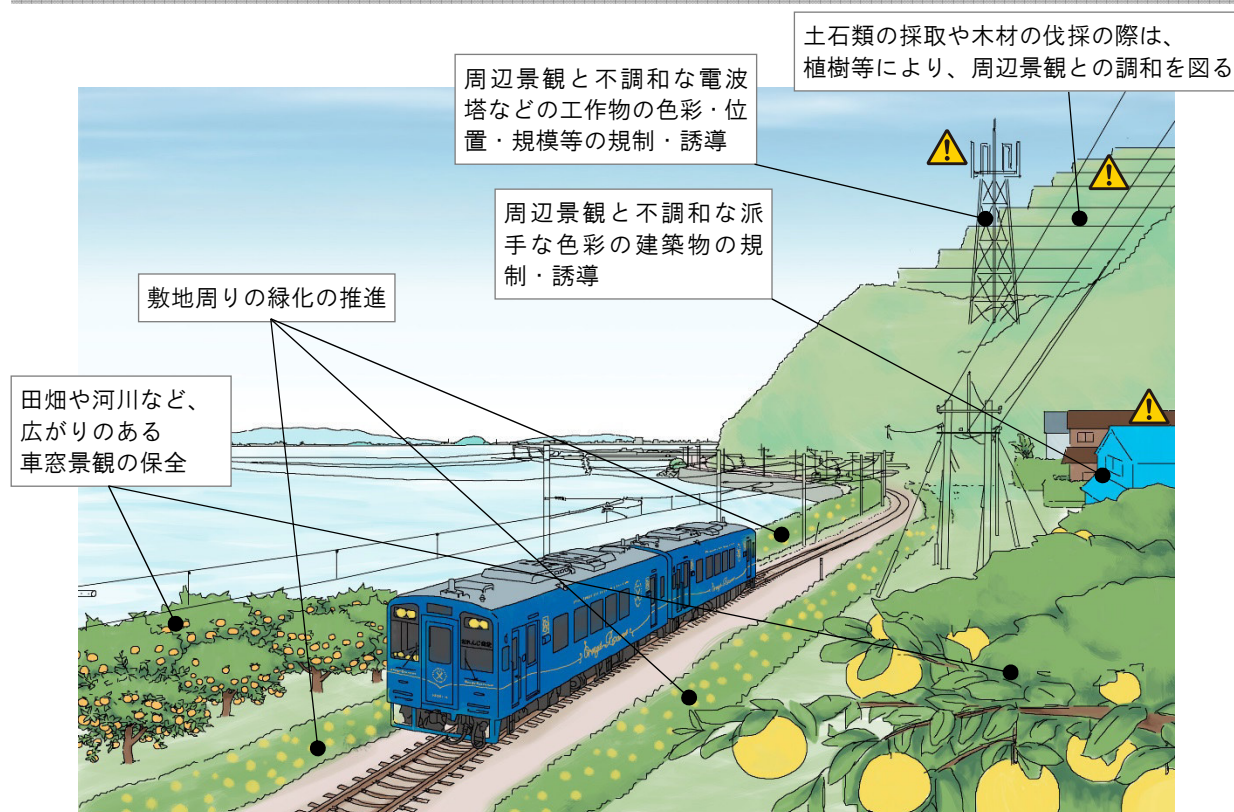


②課題

- 八代海や田畑・河川などを眺めることができ、広がりのある車窓景観の保全
- 敷地周りの花植え活動による良好な沿線景観の維持・向上
- 沿線商業施設や大型屋外広告物等の色彩・規模の規制・誘導
- 晩白柚畑や高田みかん畑など、八代ならではの沿線景観の維持・保全

③景観形成方針

海や山、晩白柚畑を眺める車窓の景観づくり

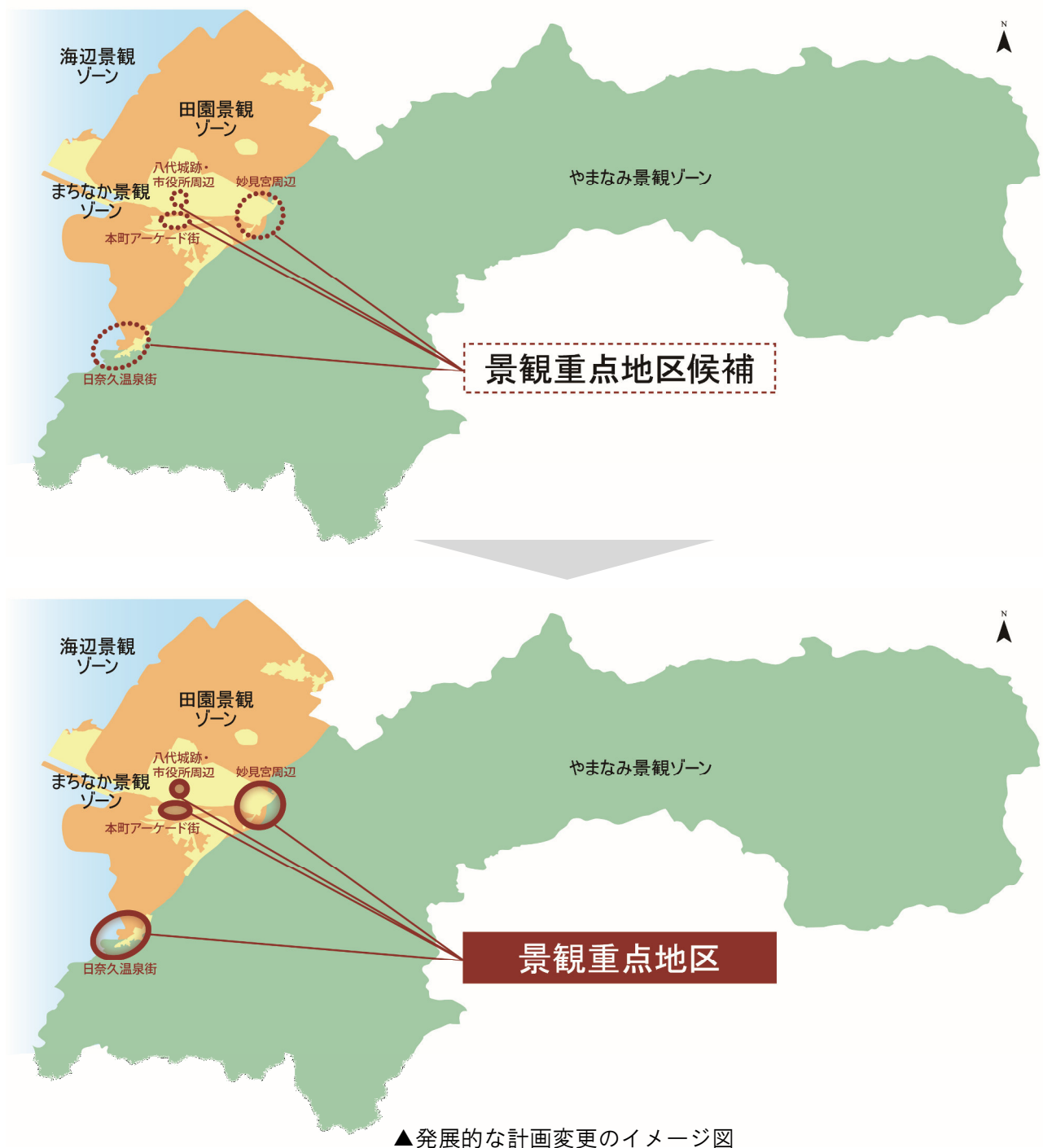


第4節 景観重点地区候補の景観形成方針

本計画では、景観づくりの土台となる良好な景観形成の必要性や望ましい景観形成のイメージの共有を主な目的に、市域全体を対象とした景観形成方針と緩やかな基準等を設定しています。

このうち、特に、景観の保全・整備が必要と考えられる4地区（八代城跡・市役所周辺地区、本町アーケード街地区、妙見宮周辺地区、日奈久温泉街地区）については、将来的に重点的な景観誘導が必要と考えます。そのため、本計画においては、これらの4地区を景観重点地区候補として、景観づくりの方向性を決めました。

今後は、景観重点地区候補や“眺めの小路”周辺エリアをはじめとした、八代市固有の景観を有する地区において、景観まちづくりへの機運が高まった際に、地区住民との協議を踏まえて、より詳細な景観ルールを定める景観重点地区への位置づけを検討していきます。



(1) 八代城跡・市役所周辺

①特性

- 八代城跡・市役所を中心とした景観エリアです。
- 八代城跡のお堀や石垣、松浜軒、神社など、多くの歴史的観光資源が集まっており、市を代表する観光エリアとして、国内外から観光客が訪れています。
- 市役所は新庁舎整備が進められており、庁舎を中心としたエリアの景観整備に注目が集まっています。



②景観重点地区候補への選定理由

- 八代城跡などの歴史的資源と周辺景観との調和が必要な地区
- 市役所新庁舎と周辺市街地との一体となった景観整備が求められている地区
- 市を代表する観光エリアとして、国内外から観光客を呼び込むための魅力ある景観形成が求められている地区

③景観形成方針

市民の癒し「八代城跡」と調和した、和の景観づくり

電線や電柱は、地域の気運の高まりに応じて、電線の整理等、周辺景観に配慮したものとする

周辺の歴史的な雰囲気と調和した色彩の建築物の規制・誘導

敷地周りの草花や生垣・庭木等による緑化の推進

周辺景観と不調和な建物の位置・規模の規制・誘導

広告物は必要最小限の数・大きさにするとともに、周辺景観と調和した統一感のあるものとする

派手な色彩の広告物の規制・誘導

石垣の草取り、お堀の水の浄化

周辺景観と調和した案内サイン、休憩施設の整備

(2) 本町アーケード街

①特性

- 全長約730mに渡る本町アーケード商店街を中心とした景観エリアです。
- 飲食店や衣料店など、約150店舗が軒を連ね、市民の生活を支えています。
- 休憩所や広場があり、市民の交流の場、憩いの場となっています。
- 「土曜夜市」など、まちの賑わいを創出するイベント活動が行われています。
- 薩摩街道沿いに建てられたお寺や町屋が、近隣に点在しています。



②景観重点地区候補への選定理由

- 八代城跡・松浜軒等と一体となった「和の景観づくり」など、テーマ性を持った統一感のある景観形成が必要な地区
- まちの賑わいを創出するイベント活動に併せて、集客力向上を目的とした商店街主体の景観まちづくり活動が必要な地区

③景観形成方針

「和モダン」をテーマにした、統一感のある本町アーケードの景観づくり



(3) 日奈久温泉街

①特性

- 日奈久温泉街の趣あるまちなみを中心とした景観エリアです。
- 600年の歴史を持つ日奈久温泉は、熊本県内で最も古い温泉のひとつです。
- なまこ壁や木造建造物のまちなみが、今も残り、ところどころで小さなお堂や神社を見つけることができます。
- 栈敷の相撲場がある日奈久温泉神社からは、日奈久の市街地と八代海を眺めることができ、良好な視点場となっています。

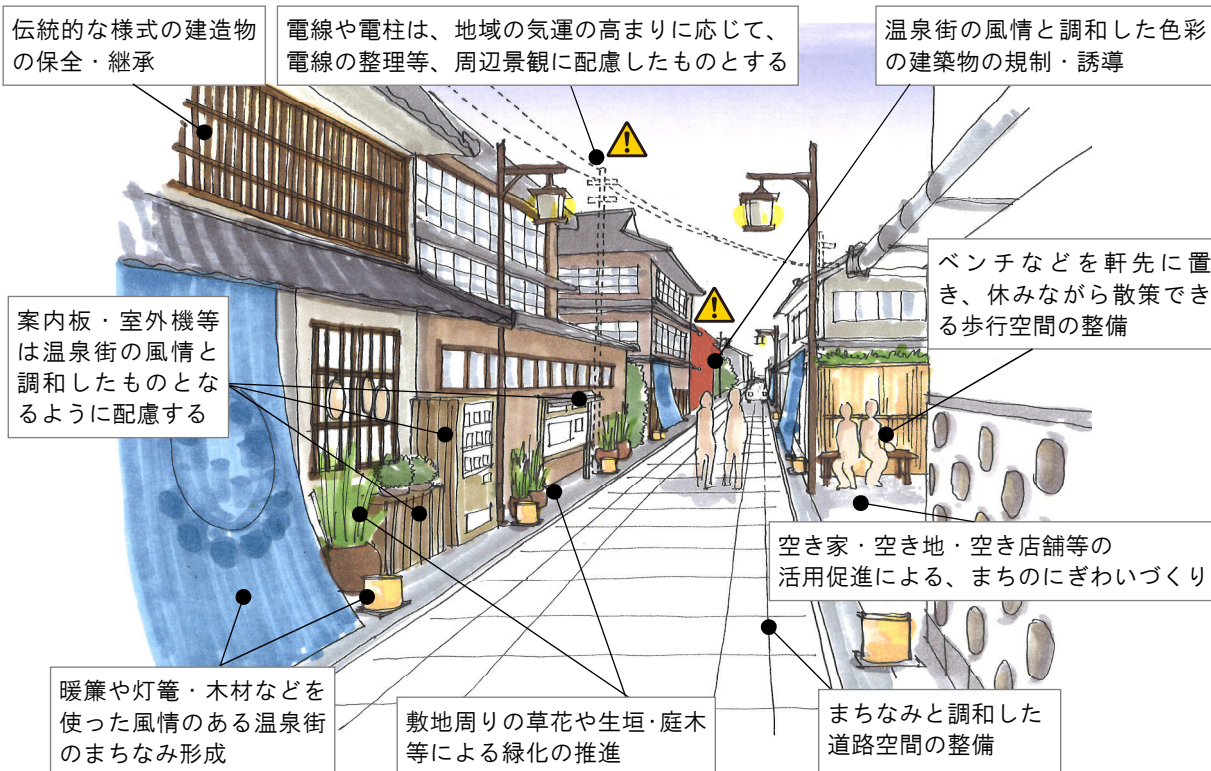


②景観重点地区候補への選定理由

- 景観形成事業を実施するなど、景観まちづくりの機運が高まっている地区
- 温泉街の風情を活かした統一感のある和風のまちなみ形成が必要な地区
- 歴史的資源の維持・保全が必要な地区

③景観形成方針

歴史の香り漂うまち 日奈久温泉街の景観づくり



(4) 妙見宮周辺

①特性

- 「妙見さん」と呼ばれ、親しまれる八代神社(妙見宮)を中心とした景観エリアです。
- ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭や八代神社氷室祭が行われる時期は、多くの人が訪れ、賑わいをみせています。
- 八代神社(妙見宮)の門前町として形成され、今でも、春光寺、紙漉き水路などの風情ある歴史的景観が残っています。
- 市街地を見渡すことができる古麓稻荷神社は、良好な視点場となっています。



②景観重点地区候補への選定理由

- 八代妙見祭など、祭りの風情と調和した歴史と風格のあるまちなみ形成が必要な地区
- 八代神社(妙見宮)などの歴史的資源と住宅地との調和が必要な地区
- 歴史的資源の維持・保全が必要な地区

③景観形成方針

門前町の風情が残る「妙見さん」の景観づくり

